

# 2

## 山口県の地震・津波

◆ 山口県は、これまで地震による被害は比較的少ないとされていたが、過去には、大規模地震により大きな被害があったとの記録もある。

また、近年は、西日本においても地震の活動期に入ったと言われており、山口県でも、平成9年に震度5強を、平成13年に震度4の揺れを観測する地震が発生し、被害が出ている。

◆ 山口県に影響のある地震としては、30年以内に70%~80%の確率で発生されるとされている「南海トラフ地震」のほか、「安芸灘~伊予灘の地震」、「県内の活断層による地震」、「日本海側の地震」がある。

### [南海トラフ地震]

南海トラフを震源とし、過去、概ね100年から150年周期で発生しており、最大マグニチュード9クラスの巨大地震が発生した場合、山口県においては、震度6弱、瀬戸内海沿岸に最大3.8mの津波が来ると想定されている。

### [安芸灘~伊予灘の地震]

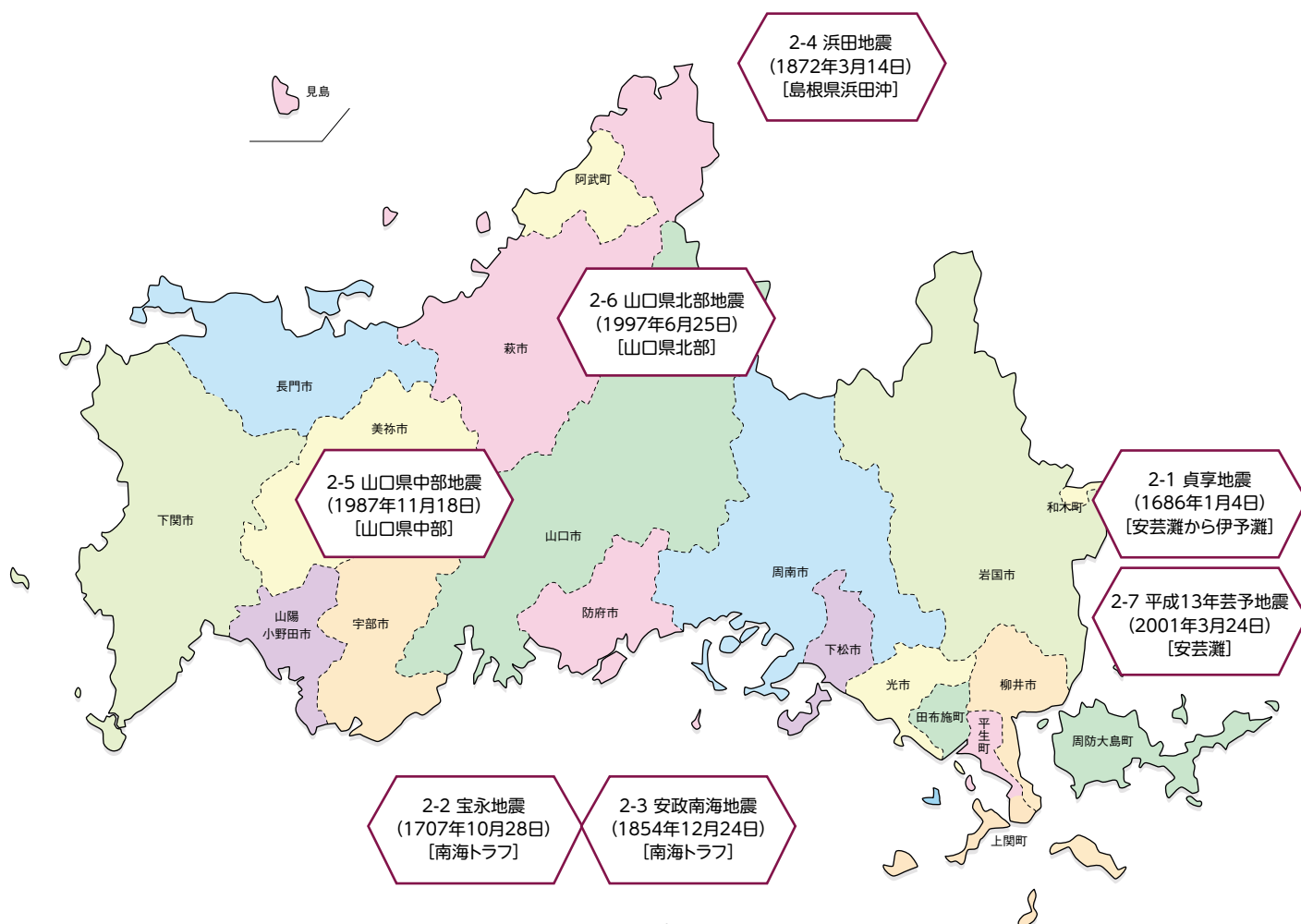
これまでも50年~100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が発生しており、山口県においては、最大震度6弱の揺れが想定されている。

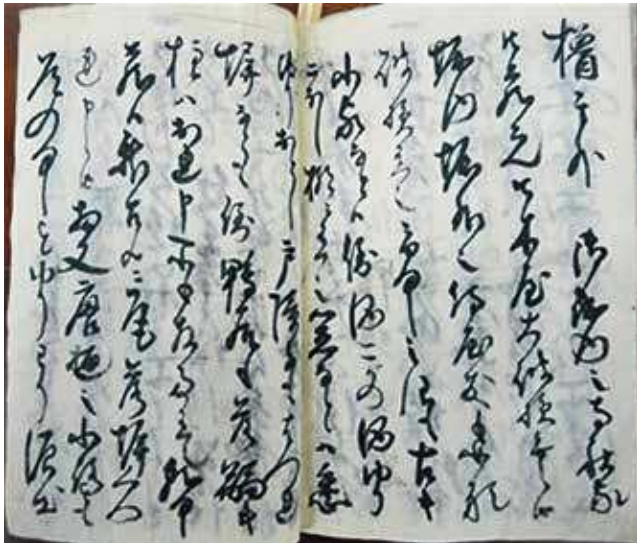
### [活断層による地震]

山口県には、10以上の活断層が存在しており、これらの活断層が動いた場合、直下型の地震が発生し、最大震度7~6弱の大きな揺れが想定されている。

### [日本海で想定される地震]

最大で4m程度の津波をおこすような地震が発生すると想定されている。





公儀ヨリ被仰出御書付控 (山口県文書館所蔵)



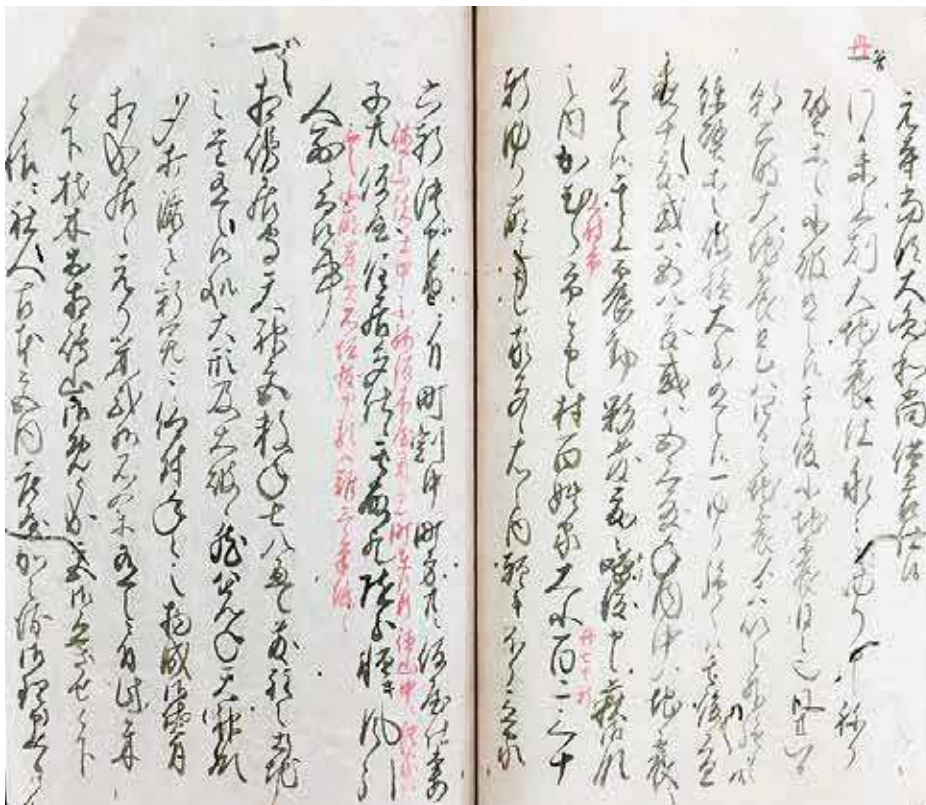
御用所日記 (岩国市徴古館所蔵)

発生年月日	貞享2(1686)年12月10日(新暦1月4日)昼
震源	安芸灘から伊予灘
マグニチュード(推定)	7.2
各地の震度(推定)	震度5強(最大震度): 広島県広島、愛媛県松山、愛媛県大洲、萩 震度5: 岩国、徳山、広島県三原 (宇佐美龍夫(2003):『最新版日本被害地震総覧 [416]-2001』, 東京大学出版会, 605pp.による)
被害の規模	<p>■「公儀ヨリ被仰出御書付控」によると、萩城で塀・石垣が崩壊し、武家屋敷の一部が破損するとともに、古い民家が倒壊したことが記されている。また、当初、城下町から離れた場所の被害は、三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した程度で、被害は少ないと見られていたが、後に、大島郡(現在の周防大島町)の被害が大きかったことが判明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 城内の塀や石垣が所々崩れたものの、天守閣をはじめ門や櫓、役所、寺社の建物に大きな被害は無かった。</li> <li>● 城下町では、強い揺れにより、古い家屋が倒れ、棚にあった器がごとごとく落ち、建具がはずれたり瓦が落ちた。なかでも唐樋地区では、道が割れ泥が出るといった液状化現象が起きた。また、怪我人も発生した。</li> <li>● 三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した。</li> <li>● 大島郡外入村(現周防大島町外入)では、建物の倒壊や地震による山崩れによって、多数の怪我人が出た。</li> </ul> <p>■「御用所日記」には、岩国で、武家屋敷の塀が壊れたり、多くの屋根瓦が落ちたり錦帯橋の台石がはみ出したと記されている。</p>
被害の特徴	<p>■ 貞享地震は、日本列島の下に沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられており、明治38年(マグニチュード7.2)や平成13年(マグニチュード6.7)など、近年に至るまで繰り返し発生している。</p>



あきなだ いよなだ しゅうき  
安芸灘～伊予灘では、これまでも50～100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が繰り返し発生しているんだ。

じしん さいがい そな びちくひん ひじょうもちだしひん じゅんび  
地震などの災害に備えて、備蓄品や非常持出品を準備しよう。



逸史 宝永四年(山口県文書館所蔵)

江戸御奉書控 宝永四年  
(山口県文書館所蔵)大坂御奉書控 宝永四年  
(山口県文書館所蔵)

発生年月日	宝永4(1707)年10月4日(新暦10月28日)午後2時頃
震源	南海トラフ
マグニチュード(推定)	8.6
各地の震度(推定)	震度7相当: 河内平野の一部 震度6強から6弱相当: 九州東部から甲信地域 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「公儀事諸控」に、萩藩で10月4日の地震では特に被害はなかったが、24日後の10月28日に上徳地村(現山口市徳地)で地震が起こり、建物289軒が倒壊し、死者が3人などの被害が出たと記されている。</li> <li>■ 「大坂御奉書控」「江戸御奉書控」に、徳山で、4日午後2時から5日朝まで度々揺れたが、建物の被害は少なく、夜中に津波が来たものの、人馬等の被害はなかったと記されている。</li> <li>■ 「逸史 宝永四年」には、他国と比べて、地震の被害は「百分一」、津波の被害は「十分一」と記されている。</li> <li>■ 「防州湯田村温泉記」に「大地震泉湯亦廢。寶永七庚寅之秋注出如前焉」とあり、湯田温泉で、宝永地震の際に、温泉の湧出が3年にわたって止まったと記されている。</li> </ul>
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山口県では、24日後の10月28日には誘発地震とみられる地震が発生し、死者が出た。</li> <li>■ 津波が発生し、九州東南部から伊豆、房総半島までの太平洋沿岸の広い範囲に大きな被害を与えた、また、地震の49日後に富士山が噴火した。</li> <li>■ 過去、南海トラフで発生した5地震(明応・慶長・宝永・安政・昭和)の中でも最大規模であり、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生までは、国内で発生した史上最大規模の地震とされている。</li> </ul>



なんかい 南海トラフで起きる地震は、概ね100~150年で繰り返されているんだ。  
かこ 過去に起きた大地震を学び、次に起こる大地震に備えよう。

## 関係する伝承



やないしひづみ ほうえいじしん ゆ かわごいし  
柳井市日積に、宝永地震の揺れで「革籠石」という石が割れたと伝えられているよ。

### 革籠石〈柳井市日積〉

「玖珂郡日積村瑞雲寺近邊革籠石（かはごいし）あり。傳へ言ふ。寶永四年十月四日の夜大地震にて此岩鳴動して割れ、其中より金鶏飛出で向ひの民家に入る。其年より此家裕福になり、今に鶏は見えねど大晦日には鶏鳴の聲聞ゆと云へり。其由來は昔し敗軍の士自殺するに當り名劍を巖石の下に隠し置き、我子の搜索に便せん爲、鶏を革籠に入れて水をも添へ同所に置いて、其鳴聲を槩に取出さしめんとしたるも、餘りに日數を経鶏は革籠の中に死して、可惜名劍も遂に其所在を失ひしが、端なくも地震によりて其巖石は破裂し、鶏の亡魂は空隙を得て飛行して民家に入り、年々時を違へず鳴くと云へり。」『防長地名淵鏡』 御藺生翁甫 1931、（復刻版）マツノ書店 1984

❶

日積村にある革籠石から金の鶏が出てきて、民家を裕福にしたという言い伝えがある。昔、戦争に敗れた兵士が自決する際に隠した名劍を息子に見つけさせるために、鶏を革の籠に入れておいたが、結局劍はなくなり鶏も死んでしまった。しかし、その後の地震で割れた岩から鶏の魂が飛び出して民家に入り、大晦日になると決まって鳴くのだと伝わっている。



やまぐちし ゆだおんせん ほうえいじしん  
山口市の湯田温泉に、宝永地震のときに温泉が出なくなり、3年後の秋に以前のように温泉が湧き出るようになったという話があるよ。

### 地震るい、泉湯廃す〈山口市湯田温泉〉

「然亦寶永四丁亥年十月、大地震泉湯亦廢。寶永七庚寅之秋注出如前焉。呼呼、此泉靈哉。神哉。侷與侷廢。此天運自然之盛衰神所以示人存亡之道也。即是三所權現所受之靈液而藥師佛亦以神之託乎。」『防州吉敷郡湯田村温泉記〜藥師仏と白狐のものがたり』より（荒巻大拙 2000）



湯田温泉

❶

宝永4年10月、大地震が起こり温泉の湯はすっかり涸れたが、宝永7年秋、以前のように温泉が湧き出るようになった。自然の盛衰のあらわれであろうか。天が人間に存亡の道を示しているのか。

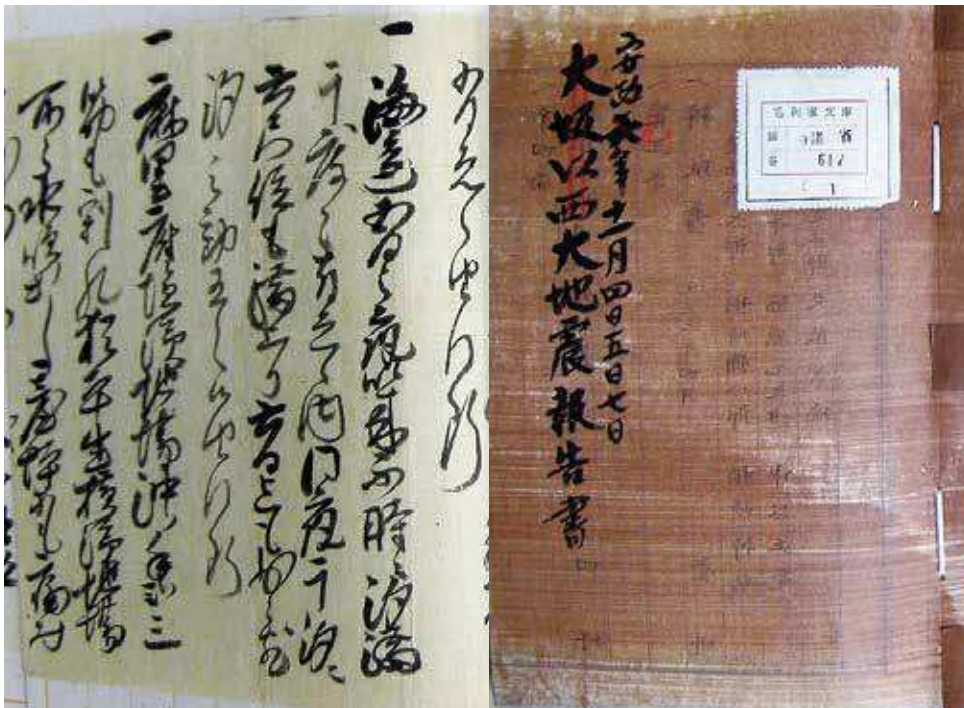
## トピックス

## 緊急地震速報



気象庁は、地震が発生したら地震計でとらえたデータから、震源、地震の規模（マグニチュード）、震度を解析して、最大震度が5弱以上と予想した場合は、緊急地震速報をテレビやラジオなどを通して発表するんだよ。なお、震度6弱以上の揺れを予想した緊急地震速報（警報）は、地震動特別警報に位置づけられているんだ。

※緊急地震速報を発表してから地震のゆれが来るまでの時間は、長くても数十秒と大変短いので、緊急地震速報を聞くよりも早くゆれが起きてしまうことがある。



大地震報告書 (山口県文書館所蔵)

御三霊様御事蹟御編集掛日記  
(山口県文書館所蔵)密局日乗  
(山口県文書館所蔵)

発生年月日	嘉永7/安政元(1854)年11月5日(新暦12月24日)午後4時頃
震源	南海トラフ
マグニチュード(推定)	8.4
各地の震度(推定)	震度6強又は6弱相当: 高知、徳島、兵庫、和歌山各県の沿岸部など 震度5弱相当以上: 四国を中心に九州東部から中国地方、近畿地方の西部 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.)による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「大地震報告書」によると、萩藩領内で11月4日に小さな地震が起こり、5日に大きな地震に襲われ、その後も余震が続いたことが分かる。地震による被害は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都濃郡末武下村(現下松市末武下)では高札場の玉垣が崩れ、米蔵の壁に割れ目が入り、花岡八幡宮(現下松市末武上)の石灯籠4基が倒れる被害が出た。</li> <li>● 台道村(現防府市台道)・名田島村(現山口市名田島)では干拓地の土手が割れた。</li> <li>● 平生村(現平生町)・中野開作(現宇部市中野開作)などの瀬戸内海沿岸で液状化現象が起こった。</li> <li>● 上関代官から5日夜の干潮時に180cmの津波が報告されている。</li> <li>● 嘉万村(現美祢市秋芳町)の弁天池では、地震後に湧水が濁り、水位が下がった。</li> </ul> </li> <li>■ 「密局日乗」や「御三霊様御事蹟御編集掛日記」には、萩城下でも被害があり、米屋町の町屋一軒が大きく西に傾き、清水寺の本門の片柱が30cm程度地中に沈んだと記されている。</li> <li>■ 「御蔵本日記」には、都濃郡東豊井村(現下松市東豊井)妙法寺では、地震により台所の屋根が釜場に落ちて火事が起きたことが記されている。</li> </ul>
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 嘉永7年/安政元(1854)年11月4日の午前9時頃、駿河湾・遠州灘・熊野灘の海底を震源とする安政東海地震(マグニチュード(推定)8.4)が発生し、約32時間後の11月5日午後4時頃に、紀伊水道から四国沖の海底を震源域として安政南海地震が発生した。</li> <li>■ 山口県の瀬戸内海沿岸では最高1.8mの津波が押し寄せ、南海トラフから350km以上も離れた萩市で家屋の倒壊などの被害がでた。</li> </ul>



あんせいなんかいじしん  
安政南海地震では、山口県にも約1.8mの津波が来たんだ。  
海の近くにいるときは「地震がおきたらすぐに高い場所に避難する」という心の準備をしよう。

## 関係する石碑



す お う おおしまちょうとのにゆうごう とのにゆうごう あんせいなんかいじしん つなみ どうたつ きねんひ  
 周防大島町外入郷には、安政南海地震の津波が到達したという記念碑があるよ。

### 【祠と安政南海地震津波到達碑】

とのにゆうごう  
 外入郷には、安政南海地震による「大津波が大歳神（田んぼの神様）の祠がある小山の下の畑までの近くまで来た」という言い伝えがある。

平成 25 年 8 月には、外入自治会及び有志により、この言い伝えを風化することなく次世代へ継承していくため、祠のある地に「安政南海地震津波到達碑」と「説明版」が設置された。



祠と安政南海地震津波到達碑



白木漁港（外入）  
 地理院タイルを加工して作成

## トピックス

### — 周防大島町立城山小学校の取り組み —



す お う おおしまちょう つなみ す お う おおしまちょうりつ  
 周防大島町には、津波が来たという言い伝えが各地に残っていて、周防大島町立  
 城山小学校では、周防大島各地に伝わる津波伝承を防災教育に活用しているよ。

周防大島町には、津波襲来の言い伝えが各地に残っていることから、城山小学校では「津波伝承のお話を聞く会」を開催して周防大島各地に伝わる津波伝承を発見・継承している。また、地震津波への備えを広めるため「ぼうさいかぞえ唄」を発表している。

#### ぼうさいかぞえ唄

ひとつ ひとつよに つたえたい	ふたつ ふるさと ふるえるひ
さんてん いちいち おもいだせ	よっつ よこゆれ ながいとき
いつうつ いっとき みをかくせ	むっつ むかえ たかいとこ
なーみは よんばい さかのぼる	やっつ やめとこ ひきかえし
ここのつ このみも てんでんこ	とーどけ このこえ せとないかい
ひーびけ このうた にしにほん	ようじんせえ ようじんせえ
はんじょうせえ はんじょうせえ	はんじょうせえ はんじょうせえ

#### 【タコぎし】

棕野には、棕野本川を遡上した津波で運ばれた蛸が、石垣に張り付いていたという伝承が残っていることから、「タコぎし」と呼ばれる地名がある。

され  
 佐連には、「1854 年のことだと思うが、佐連を襲った大津波で、当時の佐連集落の 6 割がやられた」という言い伝えがある。



タコぎし



地理院タイルを加工して作成

平野鎌田には、「大津波が押し寄せて家ごと流された」「鎌田の家で糸車を回していたら、糸車ごと津波に流された」という言い伝えがある。

おおつみ おつみ  
 大積又は小積には、「船が浜から離れた田に打ち上げられた」という言い伝えがあるんだ。また、小積には 6～7m の津波の言い伝えがある。

船越には、「津波で牛が流された」「海岸の石垣が全て流された」という言い伝えがある。

下田には、「津波は、こんな高潮のようなものではない。だから、津波が来た時にはこの山に逃げ上がれ。」という言い伝えがある。



内藤万里助後造酒公私日乗 (山口県文書館所蔵)

明治五年ノ濱田地震  
(今村明恒著 震災予防調査会報告書第77号 1913年)

発生日月日	明治5(1872)年2月6日(新暦3月14日)午後4時40分頃
震源	島根県浜田沖
マグニチュード(推定)	7.1
各地の震度(推定)	震度7(最大震度): 島根県浜田市 震度5~6: 萩、小郡、島根県益田市 震度5: 下関、山口、徳地、弥富、油谷 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「馬関支庁記録」に、豊浦郡横野村(現下関市横野町)の横野八幡宮の鳥居が倒壊し、同郡彦島八幡宮の笠石が落ち、さらに同郡武久村(現下関市武久村)善福寺の門が大破するなどの被害が記録されている。</li> <li>■ 山口県初代県令中野梧一の日記「中野梧一日記」に、湯田温泉ではランプが壊れ、瓦が落ちたことが記されている。</li> <li>■ 道場門前の商家安部家の日誌「年中日誌」に、瓦が落ちる被害が記されている。</li> <li>■ 当時萩にいた旧萩藩士内藤万里助の日記「内藤万里助後造酒公私日乗」からは、萩でも被害があり、16日まで余震が続いたことがわかる。</li> <li>■ 島根県浜田測候所が地震から40年後の明治末期に行った調査結果をとりまとめた「明治五年旧二月六日浜田地震」には、萩市沖の見島で約1.2mの海面上昇があったことが記されている。</li> </ul>
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 島根県を中心とする日本海沿岸地帯で、死傷者は1,100人以上に上り、家屋の全半壊は焼失を含めて1万件弱に及んだ。特に島根県では、死者約550人、家屋の全潰約5千棟が発生した。</li> <li>■ 島根県浜田市の海岸では地盤の著しい隆起・沈降が起きた。また、地震の5~10分前に海水が最大で約2.4m引いた後、地震後に最大で約3mの高潮が押し寄せた。</li> </ul>



はまだじしん にほんかいがわ はざししみま つなみ  
浜田地震では、日本海側の萩市見島で約1.2mの津波が来たんだ。  
地震のゆれによる被害だけでなく、津波にも注意が必要だよ。

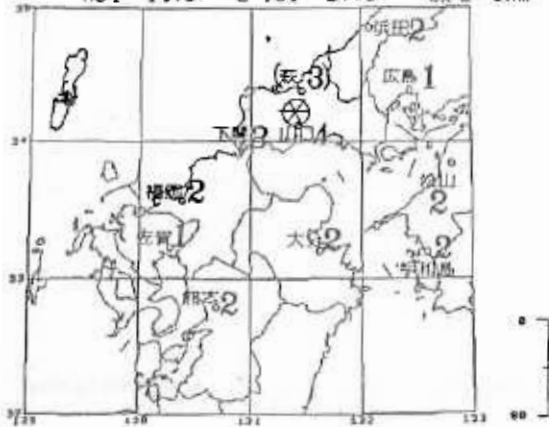
## トピックス

### 震度の観測

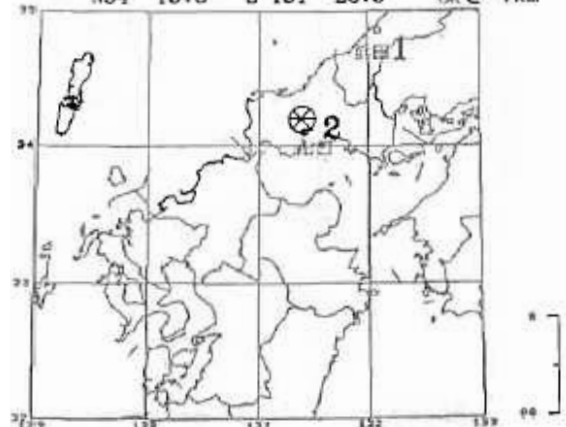
平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に、都道府県による震度計の整備が進められ、山口県では、平成9年3月に震度計の設置が完了し、4月から運用が開始、11月から気象庁が発表する地震情報に利用されているんだ。

地震情報で発表される山口県内の震度観測点は、現在、山口県54地点、気象庁10地点、防災科学技術研究所12地点の76地点なんだよ。

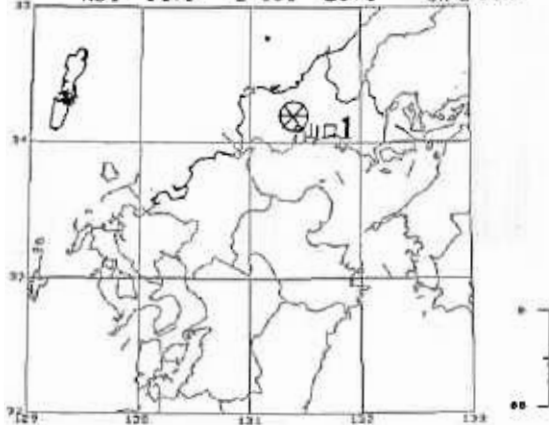


1987年11月18日00時57分(M:5.2) 山口県南部  
 N34° 14.3' E 131° 27.5' 深さ 8km


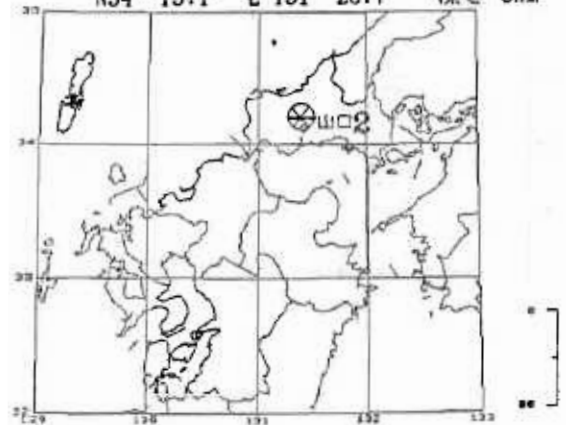
震度分布図(本震:11月18日0時57分)

 1987年11月21日08時28分(M:3.6) 山口県南部  
 N34° 13.8' E 131° 26.3' 深さ 7km


震度分布図(余震:11月21日8時28分)

 1987年12月04日01時32分(M:3.3) 山口県南部  
 N34° 14.0' E 131° 26.4' 深さ10km


震度分布図(余震:12月4日1時32分)

 1987年12月09日04時28分(M:3.4) 山口県南部  
 N34° 13.1' E 131° 26.7' 深さ 6km


震度分布図(余震:12月9日4時28分)

発生年月日	昭和 62 (1987)年11月18日0時57分		
震源	山口県中部(山口市の北東約10km 北緯34度14.31分, 東経131度27.45分)		
マグニチュード	5.4	深さ	8.38km
各地の震度	震度4(最大震度):山口 震度3:下関、萩(震度3相当)		
被害の規模	(人的被害)軽傷者2人 (住家被害)非住家一部破損1棟 <被害総額>約8,300万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山口では、昭和 43 年以來 19 年ぶりに震度 4 を記録した。</li> <li>■ 11 月 18 日 0 時 57 分の本震以降、長期にわたって余震が発生した。</li> <li>■ デパート内のシャンデリア、陳列物の落下、地割れ、木造家屋の全壊、コンクリート造りの建物の壁に生じた亀裂、木造家屋の壁に生じた亀裂、石積み造り基礎の石の移動、窓ガラスの破損、水道管の継ぎ手部分の破損が発生した。</li> <li>■ 震源地の南方では、墓石、石碑、石灯籠が転倒したり、移動した。</li> </ul>		



山口県中部の地震では、長い期間、余震が発生しているんだ。  
 大きな地震が発生すると、建物が傾いたり土砂災害が起きやすくなることがあるんだ。  
 その後に発生する余震でも被害が生じやすくなっているから注意してね。

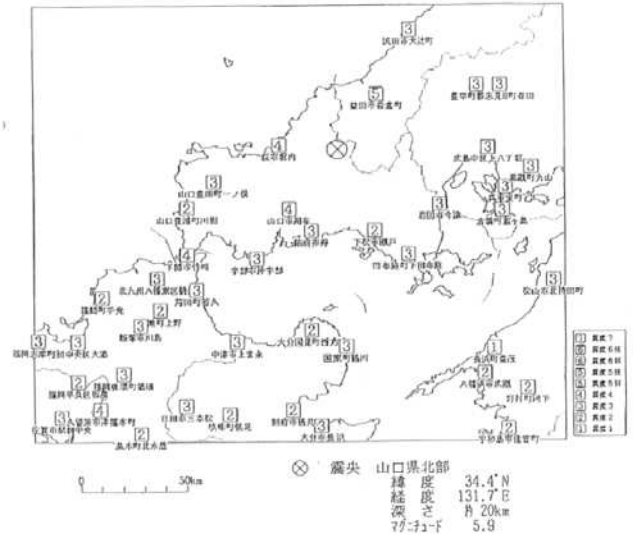




住宅被害

震度分布図

1997年 6月25日 18時50分



震度分布図



住宅被害



住宅被害



道路被害

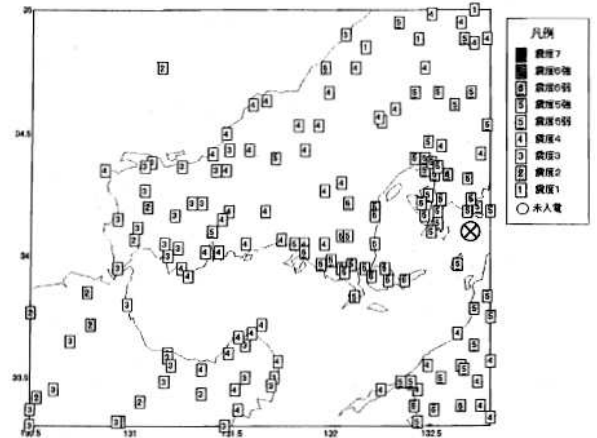
発生年月日	平成9(1997)年6月25日18時50分		
震源	山口県北部(山口・島根県境付近 北緯34度26.3分, 東経131度40.1分)		
マグニチュード	6.6	深さ	12km
各地の震度	震度5強(最大震度): 島根県益田市 震度4: 萩市、山口市、下関市		
被害の規模	(人的被害) 軽傷者2人 (住家被害) 全壊1棟、半壊7棟、一部損壊216棟 <被害総額> 約4億2,700万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 家屋の全半壊など比較的被害の大きいものは、震央の南西約5kmに位置する阿東町生雲西分(現山口市阿東生雲西分)に集中し、3棟の家屋が全半壊し、コンクリートの舗装道路に40mにわたって亀裂が生じた。</li> <li>■ 中部地方(福井市:震度2)から九州南部(鹿児島市:震度1)にかけての広い地域で揺れが観測された。</li> </ul>		



山口県内には 10 以上の活断層が存在し、これらの活断層が動いた場合、大きな揺れが想定されているんだ。  
地震は起きないと思わず、住まいの耐震化を進めて、地震に備えよう。



住宅被害



2001年3月24日 15:27:54.5 34° 7.7'N 132° 41.7'E 46km M:6.7 安芸灘

震度分布図



住宅被害



地震による被害



地震による被害

発生年月日	平成13(2001)年3月24日午後3時27分		
震源発生場所	安芸灘(北緯34度7.7分, 東経132度41.7分)		
マグニチュード	6.7	深さ	46km
各地の震度	震度6弱(最大震度): 広島県東広島市、熊野町、大崎上島町 震度5強: 岩国市、柳井市、久賀町、大島町、東和町、橘町、和木町、大島町、田布施町、平生町、阿東町		
被害の規模	(人的被害) 重傷者1人、軽傷者11人 (住家被害) 全壊3棟、半壊46棟、一部損壊1,437棟 (その他被害) 道路13ヶ所、河川5ヶ所、港湾9ヶ所、漁港施設など9ヶ所、学校施設など89ヶ所 など <被害総額> 約4億8,000万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本列島の下に沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震である。</li> <li>■ 山口県錦町宇佐(現岩国市錦町)の中国自動車道下り線で、長さ25mにわたって路面に亀裂が入った。</li> <li>■ 震源の深さが51kmと深かったことから、瀬戸内海沿いに中国・四国、九州地方の広範囲にわたり震度6弱から震度4を記録した。</li> </ul>		

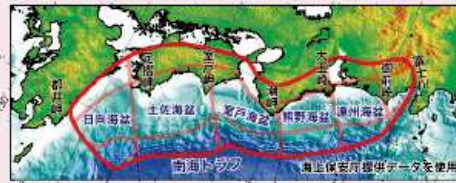


げいよじしんでは、室内でテレビや物の落下によって、怪我をした人がいるんだ。  
家具がたおれたり、棚に置いている物が落ちたりしないように固定しよう。

# トピックス



## 南海トラフ地震



東海沖から九州沖にのびる南海トラフを震源とする地震は、過去に概ね100~150年周期で発生し、日本各地に大きな被害をもたらしているんだ。

南海トラフ地震は、今後30年以内に70~80%程度の確率で発生するとされているんだ。

南海トラフで過去に起きた大地震の震源域の時空間分布

(平成 25 年 5 月 24 日地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)について」より抜粋)

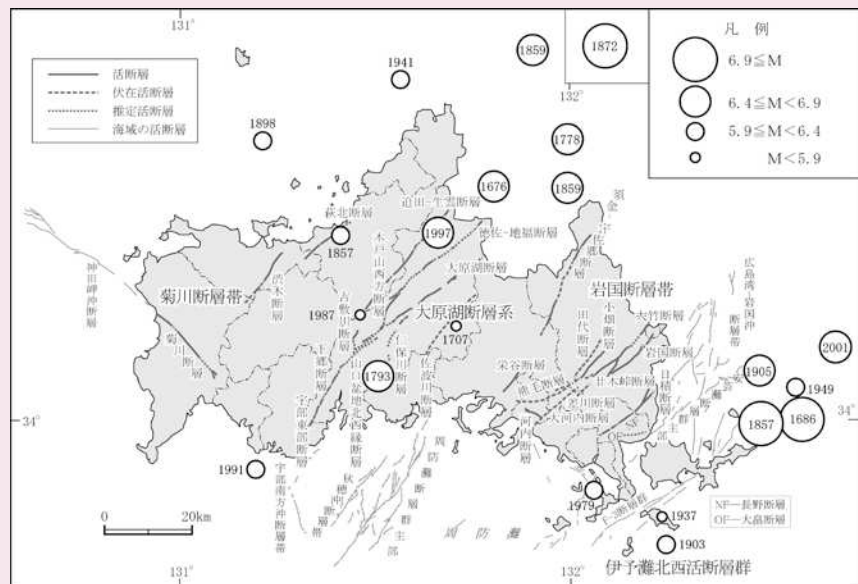
# トピックス



## 山口県の活断層

活断層とは、過去に繰り返し活動し、今後も再び活動すると考えられる断層だよ。

山口県には、10以上の活断層が存在(全国には、約2千の活断層があると推定されている。)し、活動間隔は数千年から数万年とされているから、発生時期の推定は困難なんだよ。



山口県の活断層と被害地震の震央(江戸時代以降)

(震央の位置は、宇佐美ほか(2013):「日本被害地震総覧 599-2012」,東京大学出版,694pp.に基づく)  
(注 右上の枠で囲んだ震央 1872(浜田地震)の実際の位置はその真北約 40 km.)

## トピックス



### — 家具の転倒防止など —

地震が発生すると、家具が転倒して下敷きになったり、避難の邪魔になるおそれがあるんだ。しっかりと家具を固定したり、家具の配置を見直そう。

- 寝室や出入り口付近には、背の高い家具を置かない。
- 重いものは低い位置にしまう心がける。
- タンスなど ……L型金具やポール(突っ張り棒)で固定
- 観音開きの扉 ……止め金具などで飛び出しを防止
- テレビなど ……金具や耐震シートで固定
- ガラス ……飛散防止フィルムを貼る



家具の配置や寝る場所を考えよう

## トピックス



### — 地震の心得十か条 —

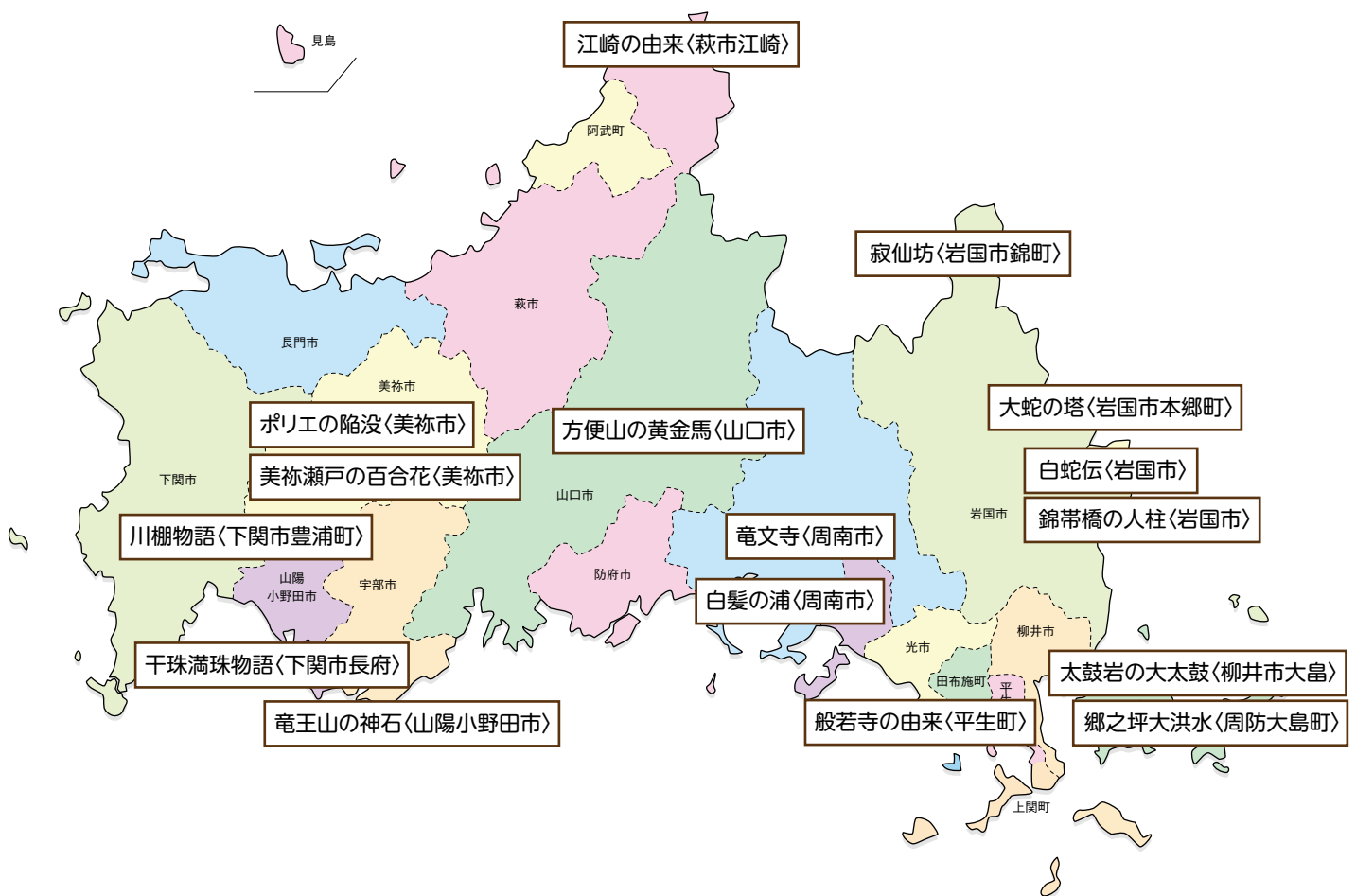
地震の発生に備え、いざという時に適切な行動がとれるよう、考えておこう。

- |   |   |
|---|---|
| 1 まずわが身の安全を図れ<br>けがをしたら火の始末や避難行動に支障がでる。<br>テーブルなどの下にもぐり身の安全を。 | 2 すばやく火の始末<br>あわてず騒がず冷静に。日頃から習慣化を。火元付近の整理整頓を忘れずに。                 |
| 3 戸を開けて出口を確保<br>特に中高層住宅では避難のための出口確保が重要。                       | 4 火が出たらすぐ消火<br>もし火災が発生しても天井に燃え移る前なら初期消火できる。できれば消火器の設置を。           |
| 5 外へ逃げるときはあわてずに<br>落ち着いて行動を。屋外に出るときは、瓦やガラスなどの落下物に注意。          | 6 狭い路地やブロック塀に近づかない<br>屋外では公園などに避難。落下物やブロック塀などの倒壊の危険があるところには近づかない。 |
| 7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意<br>山間部や海岸付近で地震を感じたら、すぐに安全な場所に避難するのが鉄則。       | 8 避難は徒歩で、荷物は最小限に<br>自主防災組織など集団で避難しよう。荷物を欲張ると避難に支障がでるので注意。         |
| 9 協力しあって応急救護<br>多数の死傷者ができれば医療機関などでの対応が限界に。みんなで助けあって応急救護を。     | 10 正しい情報を聞く<br>ラジオ・テレビや市町・消防などから正しい情報入手し、適切な行動をとろう。               |

# 3

## 山口県内の災害伝承 (伝説・昔話、ことわざ)

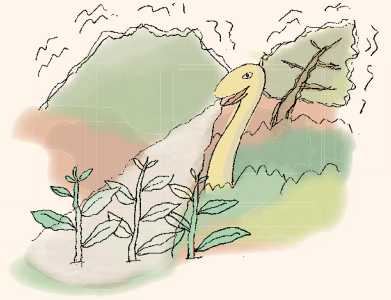
- ◆ 伝説や昔話でんせつ むかしばなしのなかには、大雨や地震、津波といった災害に関する内容が含まれていることがあり、山口県にも、そのような伝説や昔話が、各地に残っている。
- ◆ 県内の伝説や昔話には、大雨による土砂災害どしゃ さいがいや洪水、地震による岩石崩壊がんせきほうかい、津波襲来つなみしゅうらいなど災害を直接扱っている話や、災害を龍りゅうや蛇へびに例えた、雨や大地と関係した話がある。
- ◆ 県内には、雨や風など、気象に関することわざも多く伝えられている。



## 寂仙坊〈岩国市錦町〉

岩国市錦町の「寂仙坊」という話の中に、山の主である大蛇が暴れだすと、山や谷が揺れ動いたとある。

「(前略)寂地山には一匹の大蛇が棲んでいて、里の人びとは山の主と呼んで恐れていた。というのは、ひとたび大蛇がおこってあばれだすと、七つの山、七つの谷が揺れ動き、その吐く息は、山ろくの宇佐の里人が精魂こめて作りあげた農作物をも、みるみるうちに枯らしてしまうという、毒気の強いものであったからである。里の人びとが寂地山に踏み入らなかったのも、実はこの大蛇のきげんを損じないように、ただひたすらに、里の平安を願ったからにほかならなかった。(後略)』『ふるさと叢書Ⅱ 周防長門の伝説』 松岡利夫 山口県教育会 1976



## 大蛇の塔〈岩国市本郷町〉

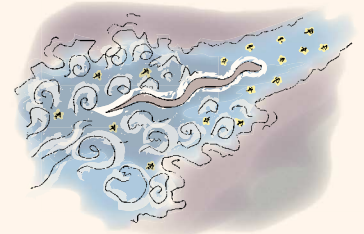
岩国市本郷町の「大蛇の塔」という話の中に、夜になると天の川に大蛇があらわれ、いつまでも荒波が立ち、天の川が荒れたとある。

「(前略)ところがまたまた大へんなことになってのんた。五郎が殺されたらすぐ、今まで明るかった空が急に曇ってきて、どろどろと五重の塔がくづれてもとの大蛇になり、ありやあ、ありやあ、とみんながたまげてさわぐなかを、五郎の死体をくわえて空高く舞い上って、天のかなたへ消えてしもうたとい。

そうして、この日から後は、夜になると、天の川に大蛇があらわれて、いつまでもいつまでも荒波が立ち、天の川が荒れて、天にはいろいろな不思議がつぎつぎに起りましたとう。(中略)

そうしてとうとう思いついて、森の池のほとりに、社を建て、大蛇をまつり、あわせて五郎とお浪の霊も一しょにまつてやりましたとい。そしたらその日から天の川の波は静かになり、一本のくさびが流れ星のように天から落ちてきましたとう。(後略)

『ふるさと叢書Ⅲ 周防長門の昔話』 松岡利夫 山口県教育会 1976



## 白蛇伝〈岩国市〉

岩国市の「白蛇伝」という話の中に、海に急に白い波が立ち始め、次々に大波が襲いかかったとある。

「(前略)しばらくしてきがついたときには、空はすっかり雨雲に覆われ、風も強くなって白馬(大波が白い波頭をたててくるさまをたとえて白馬という)がたちさわいでいました。

急いで船を今津の浜へ帰そうとしましたが、もう櫓が思うように使えません。皆があせっているうちに、たいへんなしけもようとなり、つぎつぎに大波が襲いかかってきました。

「舟を右へ廻せッ、あの白馬がくるとあぶないぞッ」

誰かが叫んだときには、もう舟はぐらっとかたむいて、皆は海に放り出され、波にのまれてしまいました。平太もぱつと大きな白い波をみたきり、気を失いました。(中略)

みていると、白い蛇は平太の腰かけている岩の横を通りすぎて、するすると、そのまま海の中へ入っていきました。

すると、白い蛇がはいっていったあとには、ざわざわと波がわかれたたちまち幅五尺ばかりの小道ができて、ずーっと今津の浜の方へ向かっているのです。

「ややッ。これはありがたい……これで今津に帰れるかも知れん」

元気に立ち上がった平太は、白い蛇が通ってつくる波間の小道をずんずん歩いてとうとう今津の浜に帰りつくことができました。

「ほんとうにわしは助かったぞ」

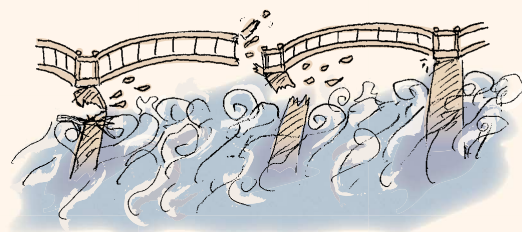
つくづくありがたく思い、あとをふりかえってみますと、もう波間の小道はあとかたもなく消えていました。(後略)

『ふるさと叢書Ⅲ 周防長門の昔話』 松岡利夫 山口県教育会 1976



## 錦帯橋の人柱〈岩国市〉

岩国市の「錦帯橋の人柱」という話の中に、錦川は雨が降り続くと濁流となり、川にかかる橋が次々と流されたことから、梅雨の長雨でも流れ落ちない橋をかけるため、人柱をたてたとある。



「(前略)なにしろ、錦川の川は、幅が二百メートルもあり、いったん雨が降り続くと、濁流(だくりゅう)がうずをまき、かける橋かける橋がつぎつぎと流されてしまうのであった。だから、もう橋をかけるのをあきらめて、渡し舟をつかってみたこともあったが、それもあまり便利ではなかったので、やめてしまった。(中略)

橋は今度こそその期待を受けて、延宝元年(1673)九月三十日にできあがった。城下の人々は、今まで見たこともない形の橋を見て、「この橋なら、どんな大水が出てもだいじょうぶだ。やっと流されない橋ができた。」と、手をうって大喜びをした。ところが、あくる年の五月、梅雨の長雨で錦川は大洪水となり、人々が心配して見守る中で、あっという間に中央の二つの橋台がくずれ、三つめのそり橋が流れ落ちてしまった。(後略)』

『山口の伝説』 山口県小学校教育研究会国語部 日本標準 1979

## 太鼓岩の大太鼓〈柳井市大島〉

柳井市大島には、正平16/康安元(1361)年に発生した南海トラフ沿いの巨大地震と思われる「正平地震」の津波襲来を伝える「太鼓岩の大太鼓」という話がある。

「都は大地震じゃげな。うわさは周防の村々にも伝わった。康安元年(一三六一)、足利尊氏のあとをついで息子の義詮が將軍になっていた。世は南北朝時代のことである。記録は六月とある。ところで、こちらは同じ年の七月二十四日。現在なら九月初旬の話。

大島の瀬戸は潮の流れの早いところで知られている。この潮のおかげであじろ(漁場)には鯛がいつも群らがっている。大磯の灯標の辺りもその一つ。

その日、そこで一本釣りをしていた漁師が大声をあげた。

「おお、潮が引く、こりゃどうしたこっちゃー。」

漁場は岩礁が多い。それがみるみる干上がったので、今まで水面下に沈んでいた大小の岩が頭を出した。その一つの大きな岩の上に、鎮守さまの太鼓の何倍もある大太鼓が乗っているではないか。ぶったまげて漁師は、龍宮城の大太鼓かと目をこすった。

浜辺には大小の魚が、足の踏み場もないほど打ち上げられていた。女どもはてんでにほぼら(灰もち。わらで編んだかご)を持って来て、われ先にと拾いだした。

男たちは岩の上の大太鼓の出現に驚き、あわててかけ寄った。中には気の早い若者がいて、近くの寺の鐘つき堂の天井から吊った棒をはずしてきた。

太鼓の大きさは、大人二十人が両手を広げて輪を作って囲むほどもある。太鼓は水牛皮で張ってあり、三ツ巴の紋が黒々と描いてある。皮をとめた太鼓の縁には、銀の鉄釘がぐるりと打ち込んである。

仰天して見守っていた漁師たちも、やっと落ちつき、若者がかっぴできた棒を四、五人が脇にかかえこむと、体ごと大太鼓にぶつかった。

するとどうだろう、その大太鼓の音はドロドロと天に響きわたり、雷鳴となって火の矢が雲の割れ目をぬって走り回った。同時に山は地すべりを始め、泥流となって田畑をうずめた。

引ききっていた海の水は、沸騰するように水柱を上げ、怪物のように牙をむいて沖の方から寄せてきた。津波だと知った瞬間、みんな一目散に丘をめざして走りだした。

その後、だれもあの大太鼓を見た者はいない。しかし、今も人々は太鼓岩と呼び、大事なあじろとして守っている。」

『語りつぎたい山口昔話』 和田 健 山口県ふるさとづくり県民会議 1997



大島の瀬戸

## 郷之坪大洪水〈周防大島町〉

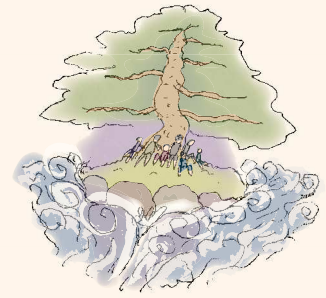
郷之坪大洪水は、周防大島町で明治19(1886)年9月24日に発生した土砂災害である。

「(前略)天地もさけるかと思われる大音響と共に、百千の弄馬のような濁流が、ものすごい水煙を立てて押しよせてきたのだ。見る間に家を倒し人を呑んだ。郷の坪は眼の前から消えてただ水と砂礫とに代つてしまつた。

上郷の坪に志度石神社の一の鳥居がある。そこから百坪くらいが一段と高くなつていて通称鳥居が壇といつておる。そこには、まわり一丈七尺もある梅壇の大樹があつた。ここで水勢が二分されたためここだけが小島のように洪水から取りのこされた。しゃにむに逃げおおせた二〇人ばかりがこの梅壇の根元にしがみついて水禍から一命を守つた。鳥居が壇のすぐ下の島家その他郷の坪で残存したのはたつた二三軒に過ぎなかつた。

河内倉之進は濁流にもまれて上になり下になつて押し流されること二キロばかり片山の川岸で救われたことは、奇跡的だといわれた。地獄の絵巻物をくりひろげたような騒ぎの中に日が暮れかかつた。その時再び一大音響が聞えた第二回目の洪水の来襲だ。しかしこの時は用心していたので命を失うものはなかつた。(後略)」(永田一郎著『郷の坪洪水記』による)

『周防大島町誌』 大島町誌編纂委員会 大島町(山口県) 1959



## 般若寺の由来〈熊毛郡平生町〉

平生町には、都の用明天皇のもとに向かう途中、大島灘で嵐にあい、皆を守るため自ら海に身を投じた般若姫の菩提を弔うため、用明天皇の勅願のもと般若寺が建立されたという伝説がある。

「推古天皇の七年(五九九年)、聖徳太子が二十七歳の八月であつた。太子は甲斐の黒駒に乗ってあまねく諸国を巡行のみぎり、周防の国熊毛郡大聖ヶ嶽を越えて、神子の岩屋や、矢線ヶ岳を眺めながら小田の里(神峰山の下、伊保の庄の海岸沿いにあり)を通りかかつたとき、海が見え、一そうの船が現われた。(中略)

やがて船のへさきに、年のころ十七、八であろうか、美しい一人の女性が立ち上り、太子にたずねかけた。(中略)

「だれ、御身は何処の生れで、何用あつて都へ上られるかな」と云うと、女性は美しい顔に涙さえ浮かべて、

「誰人とは何んというおたづねでございませう。わたくしこそは豊後国満野長者の一人娘、あなたさまの御父君(聖徳太子は五七四年、用明天皇の息子として生まれた。般若姫は太子の義母にあたる)用明天皇の妾、般若でございませう。十九歳の春、ここで難風にあい、九十四人の家人も、わたくしともどもにこの海底に沈みました。それから三十余年の間、この海に漂泊しているのです。どうぞわたくし共をおたすけ下さいませ」

と、あたりにはわかには暗くなり凄じい雷光をとともに、雨粒のまじつた強風が起り、山のような波が荒れはじめ、船は木の葉のように転動すると見るや、掌を合わせた女性は船首から暗い海中に飛びこみ、従者たちも残らず海中に没したと思われた瞬間、あたりの光景は谷間の霧と変り、波と聞えた音は松風、海上ははるか彼方に見えるのであつた。(後略)」

『史蹟と伝説と観光の山口県』 山口県新聞社 1969



般若寺

## 竜文寺〈周南市〉

周南市の竜文寺は、寺を開くため在山和尚が池の前で座禅している時に、竜女が現われ、雷雨を呼んで池を平地としたところに建立されたといわれている。

「竜文寺の現在地は往古は池であつた。竜がこの池に伏しているといわれ、世人はこれ呼んで竜ヶ潭といつた。(中略)

このため諸所を見てまわつた和尚は、この地を幽深禅地に適する所と思い、池頭に座禅、降竜のため冥祈すること七昼夜、第七夜目に竜女が現われ、「和尚この地に臨み給え、われ必ず守護せん」と言つた。言い終ると突然、天地を覆えすような雷雨が襲つてきた。

池面は怒号して竜文のような相を呈し、林谷震動すること暫時。やがて、天も晴れ、風もおさまつて月光は明鏡のように澄みわたつた。在山和尚が眼を見ひらいて竜ヶ潭を見ると、いままで深淵暗として凄絶であつた所は須臾にして平地と化し、堂宇建立に最適の地となつていた。(中略)

この瑞兆を驚き且つ喜んだ二人は、やがて此処に一寺を建立し、山号を「鹿王山」と号し、寺を「竜門寺」と呼ぶことにした。永享二年(一四三〇)であつた。(後略)」 『ふるさと叢書Ⅱ 周防長門の伝説』 松岡利夫 山口県教育会 1976



竜文寺



## 白髪の浦〈周南市〉

周南市に、神功皇后が新羅より帰国の途中、周防灘で嵐に遭い、その難を避けるため、白髪（現在の周南市戸田）の浦に上陸したという伝説がある。

〔前略〕神功皇后の水軍は新羅国王からの貢物を軍船に積み御生誕後まだ日の浅い皇子と仲哀天皇の御霊を奉じて周防灘にさしかかった。穴門の豊浦を船出して、海上は平安の船路であつたが、佐波の沖合ごろから急に風波がたちはじめ、やがて雨さえ加わり、しだいに時化がひどくなつてきた。

気丈な皇后も船酔いに蒼白となられ、その上皇子にはひどい発熱である。供奉する大臣武内宿禰はこの有様を心配して、何処ぞ御座船を着けて避難するにほどよい浦はないものかとあたりを見ていたが、ちょうどそのとき御船の左手、風雨の煙る浦曲の彼方に、白髪の老人がこちらを向いてしきりに手招きしている。宿禰は水夫たちに命じて船をこぎ寄せ、老人の案内するままとりあえず浦の民家に一夜を過ごすことになつたが皇子の熱はひどくなるばかりであつた。

様子を聞いた彼の老人は大臣の前にまかり出て「これよりほど遠からぬところに出湯があります。効験きわめてあらたかとききますが、このお湯を皇子様にお進んぜになればお熱もきつと退散するでございましょう」といつたので翌日、湯の里（今の湯野温泉）からツボに出湯を汲みかえり、皇子に奉つたところ、熱はたちまち下り、みるみるうちにお元氣になられた。大臣らはあまりの不思議さ有難さに昨夜の老人を探し求めたがその姿はなかつた。

さてそこは彼の老人は神々のお導きであつたかと驚き感じ入り、これを祀つてそれからこの浦を白髪の浦と名づけたという。



白髪の浦 周南市戸田

『史蹟と伝説と観光の山口県』 山口県新聞社 1969

## 方便山の黄金馬〈山口市〉

山口市の「方便山の黄金馬」という話の中に、山鳴り、鳴動に続いて、岩石が崩れ落ちて、数百人の坑夫が亡くなったとある。

〔前略〕各自黄金の馬に向つて突進した。すると俄然大音響が起つた。スワ山鳴りだ。「とき」をも恐れず山入りしたのが悪かつたと同思ひつuitしたがもう遅かつた。恐ろしい山鳴り、震動に續いてグワラ、グワラと岩石が崩れ落ちた。瓦落、々々、々々……暫時は鳴りも止まなかつた。坑夫達はグワンと鐵槌で頭をぶん殴られた如く感じた。幾百人の坑夫は頭脳を粉碎せられ肋骨をへし折られ又壓し潰された。悲鳴、叫喚、苦悶、唸き。散亂した毒々しい血醬と肉片、生き残つた人々も死んだような顔色になつた。聲も出し得なかつた。只がたがたと齒の根も合わず戦慄した。やがて人心地に返るとある感じが暴風のやうに脳裏を過ぎた。それは此の山の黄金の精靈が金馬に姿を變へて顯現されたのだと云う感じであつた。〕



『趣味の山口』 防長史談會 1932

## ポリエの陥没〈美祿市〉

美祿市では、1946年の南海地震の際に百数十の陥没地が発生したといわれている。

〔一九四六年、南海地震の際には、嘉万・青景・堅田各ポリエ一帯に、百数十の陥没地が発生したといわれ、現在もおポリエ面下の石灰岩の地下溶食が行われていることを示し、まさに「土地は動いている」である。特に地名が示すように流田にこの例が多い。〕

『秋芳町史』 秋芳町編集委員会 秋芳町 1963



秋吉台

## 美祢瀬戸の百合花〈美祢市〉

美祢市に「美祢瀬戸の百合花」という話があり、その中に、6月の白百合が咲くころに、大雨で川が氾濫し、堤防が決壊し、村が濁流に飲み込まれたとある。

〔(前略) さて、このとき以来、この村にはたびたび天災が起こるようになったという。

ことに、政三郎が死んだころ、一六月の白百合の花が咲くころになると、大雨に川は氾濫して堤防は決壊し濁流は村に流れ込んで、その都度農作物は莫大な被害を蒙り、加えて悪い病気も流行する一という有様であった。それでいつか村の人たちは、これはきっと政三郎のたたりには違いないというようになり、どうにかしないではと相談が重ねられる日が続いていた。〕

『ふるさと叢書Ⅱ 周防長門の伝説』 松岡利夫 山口県教育会 1976



## 竜王山の神石〈山陽小野田市〉

山陽小野田市には、仲哀天皇が九州の日向国にむかう途中、山陽小野田市の沖で嵐に遭ったという伝説がある。

〔今からおよそ千七百年ほどむかしのことだ。九州の日向国灘（ひゅうがのくに）で、クマンという豪族（ごうぞく）があばれまわっていた。

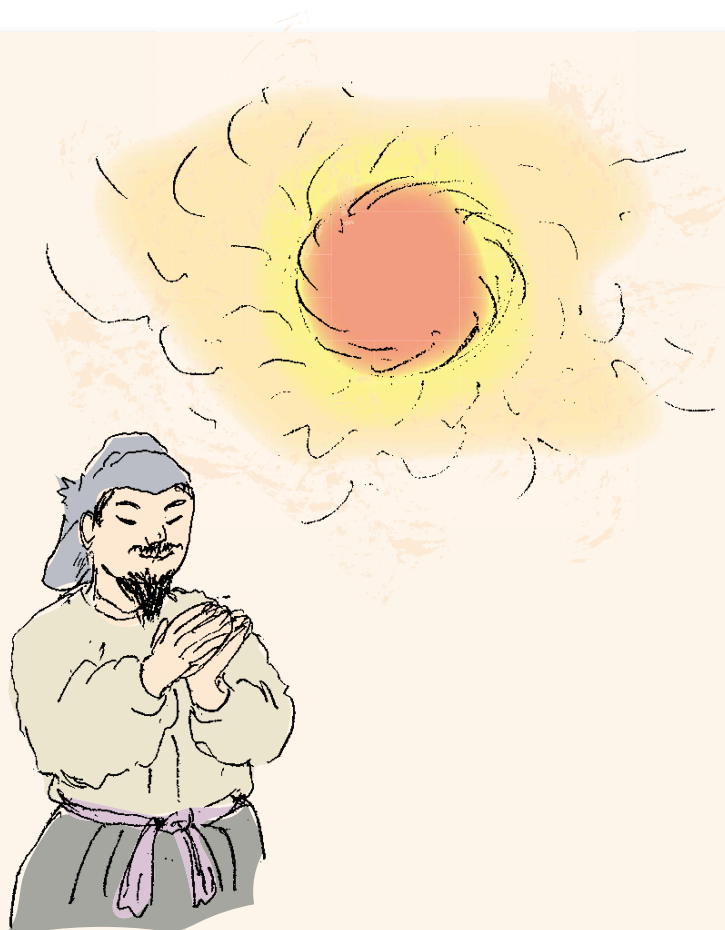
そこで仲哀天皇は、紀州（和歌山県）から軍船に乗りこみ、日向国にむかった。瀬戸内海を西へ西へと進んで、やがて、小野田の本山岬の沖合いにさしかかったときのことだ。今まで晴れていた空に黒雲がひろがりはじめたかと思うと、風も強くふきだし、波もうねりはじめた。軍船は、木の葉のようにもまれはじめた。今まで見えていた遠くの山々も見失って、方角もわからなくなった。とうとう、たくさんの軍船ははなればなれになっていった。

そのありさまを見た天皇は、「この災難を助けてくださるよう、海神においのりしよう。」と、いのりはじめた。すると、はるか沖のほうから火の玉があらわれ、ふき荒れる大空に大きな輪をえがいて、岬の方へ飛んでいった。あたりは真昼のように明るくなり、まわりの山々も見えはじめた。そのうえ、吹きすすんでいた風、荒れくるっていた波もしずまってきた。（中略）

それから六百年ぐらいたったある日のこと、この岬の長をしていた中尾宇内（なかおうない）に、つぎのようなおつげがあった。

「わたしは、むかし仲哀天皇がこの地にまつた海神である。そのときのほこらもこわれ、ながい間わすれられてきた。さっそく新しいほこらをつくり、みなが心をこめて信心すれば、この地をさかえさせ、くらしもゆたかにし、海の災難もふせぐ守り神になるであろう。また、いろいろな願いごとも、かならずみんなかなえてつかわずであろう。」村人たちは、さっそく新しいほこらをつくり、竜王の宮と名づけて、海神としてまつた。それから後、村人たちは、どんなに海が荒れても、ふしぎと災難にあうこともなく、しあわせにくらしたという。（後略）

『山口の伝説』 山口県小学校教育研究会国語部 日本標準 1979



## 干珠満珠物語 〈下関市長府〉

下関市長府に、神功皇后が、竜神から満珠（ふると潮が満ちる）と干珠（ふると潮が引く）の二つの球を借り受けたという伝説がある。

〔(前略) そのちょうど満願の日のことであった。それまでは、おぼろ月のしたに静まりかえっていた瀬戸の山々がにわかにとよみ、潮鳴りがして潮の流れはたけり狂いはじめたのである。

と、その音にまじって、

「皇后さま、皇后さま、わたしはこの瀬戸にすむ住吉神宮の化身（けしん）でござりまする」

と呼ぶ声が、皇后の耳に聞えてきた。

みると、うっすらかすんだ海の上に、白いひげを潮風になびかせながら、住吉明神が立っていられるのである。（中略）

そこで皇后は、この海岸にすむ安曇の磯良という若者を召されて、龍神のもとへ使わされ、二つの珠をかりうけてこさせられたのであった。

その二つの珠というのは、敵軍が大勢せめよせてくれば、満珠をふると、たちまちのうちに潮が満ちて敵兵はおぼれ、敵が軍船をしたててくれば、干珠をふると、たちまち潮はかれて陸となり、軍船はものの役にもたたなくなるという、まこと不思議な珠なのであった。（後略）

『ふるさと叢書Ⅱ 周防長門の伝説』 松岡利夫 山口県教育会 1976



満珠島と干珠島

## 川棚物語 〈下関市豊浦町〉

下関市豊浦町に「川棚物語」という話があり、その中に、川棚は昔沼地で、その沼に巨大な青龍が棲んでいたが、大地震で沼から熱湯が出たため龍が亡くなったとある。

「いつのころであったろうか——とにかく大昔のこと、川棚温泉の近くには大きな沼があり、そこには青龍が主（ぬし）となって棲んでいたが、その靈威によってか、ここだけには春夏秋冬を通じて水の過不足の心配がなく、里人は平和な生活をいとんでいた。

ところが、あるとき、地震が起こり、沼からは突然に熱湯がふき出したので、青龍は七転八倒——ついには死んでしまったのである。そして、それからは不穩の出来ごとがたびたび続くようになったという。

これを青龍の死靈の祟りというふう考えた里人たちは、その障りをさけるために、青龍の靈を供養し、青龍大権現として祀りあがめ、以来一万年は如何ようなことがあろうとも祭りを絶やさぬよう起請したので、里は再び平穩に帰り、湯はまた薬効あらたかな靈泉として評判は世に広まったとのことである。」

『ふるさと叢書Ⅱ 周防長門の伝説』 松岡利夫 山口県教育会 1976



JR 川棚温泉駅

## 江崎の由来 〈萩市江崎〉

萩市江崎は、昔「江津の湊」といっていたが、津波によって大破したのちに、地名を「江崎」に改めたという伝承がある。

「江崎往古江津の湊と云繁昌の地にて阿武郡十八郷の公米此湊に津出して若狭へ運送し其後津波にて此津破滅す故浦人田万の湊に居住す後益田某河内当所に田屋を構居し田万の湊へ移居所の者を呼返す此時此所八須佐村の内大江津と云所の洲崎なるに依て当津を江崎と改むのよし元来此所八田万村の内也。」

『田万川町史 付録』「御国廻御行程記」（江崎村部分） 田万川町 1999



萩市江崎

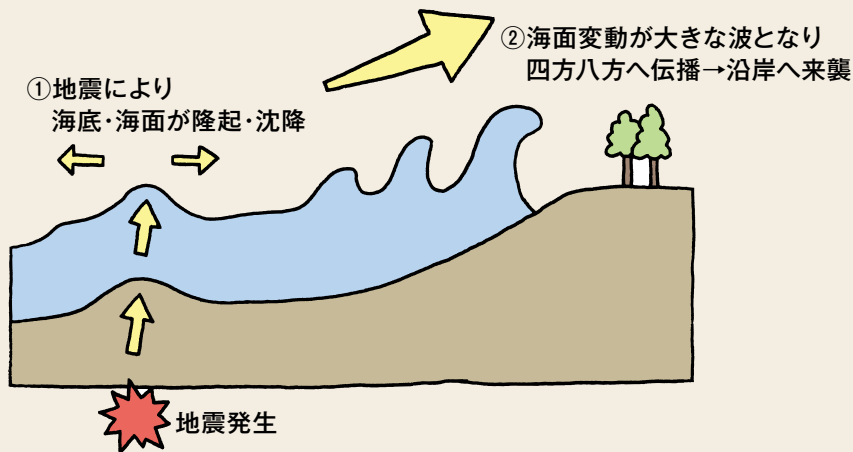
# トピックス

## — 津波 —



海底で大きな地震が発生した場合、海底の隆起（沈降）が起こり、その影響で押し上げられた海水は、大きな波となって四方八方へ広がっていくんだ。これが津波なんだよ。

南海トラフの巨大地震が発生した場合、山口県には、1.5～3.8mの津波が最短で約2時間後に来ると想定されているんだよ。



### 【津波の特徴】

- 津波は、第一波、第二波、第三波と繰り返しやってきます。第一波が小さくても、後続の波が大きい場合もあり油断はできない。
- 津波の速度は、水深が深いところほど速くなり、水深4,000～5,000mの沖合ではジェット機並のスピードで伝わる。海岸近くでも秒速10mの速度で迫ってくるので、早めに避難しよう。
- 津波の高さは、海岸付近の地形によって変動する。入り口が広く奥が狭いV字型の湾、岬の先端などでは津波が高くなる。
- 津波の持つエネルギーは膨大なものがあり、50cm 程度の高さでも危険である。

# トピックス

## — 津波に関する情報 —



気象庁では、地震の発生に伴って津波による災害のおそれがある場合、津波の高さに応じて「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」を公表しているんだ。

なお、大津波警報は、特別警報に位置づけられているんだよ。

種類	発表基準
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合

日本は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、昔から数多くの自然災害に見舞われてきました。そして、被害を受けるたびに、わたしたちの先人はそのときの様子や教訓を石碑やモニュメント（「自然災害伝承碑」といいます）に刻み、後世の私たちに遺してくれています。

国土地理院HPでは、山口県を含む全国の自然災害伝承碑を地図上に示し、どこに石碑があるのか、どのような災害が起きたのか確認できます。

これらの自然災害伝承碑には、当時の被害の大きさや、津波や洪水の最高水位など、過去からの貴重なメッセージが残されています。

身近にある自然災害伝承碑を探して、過去の自然災害の教訓を知り、これからどのように備えたらよいか、みんなで考えてみましょう。



高潮来襲記念碑(山口市秋穂東)

## HPで自然伝承碑をチェック！

国土地理院HP

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>



山口県だけでなく、全国で発生した災害について知ることができるよ。

memo

# ことわざ

## 雨に関することわざ

梅雨の夕焼けは雨になる。
夏の夕焼けは雨。
秋の朝焼けは雨が近い。
紫がかった夕焼けの様子が変わると雨が降る。
朝虹がかかると雨になる。
虹が川をわたってかかると雨。
山が近く見えると雨が近い。
雨蛙（青蛙）が鳴くと雨が降る。
猫が顔を洗うと雨がふる。
つばめが低いときは雨になる。
午前鳶が飛べば雨が降り、午後飛べば日和となる。
鶏がこやに遅くまで入らないと翌日はきっと雨。
魚が水面におどれば雨が近い。
蜈蚣がでると雨がふる。
日の入りに暗むと、雨と南寄りの風が強くなる。
裏の山の孟宗竹が揺れると（南東風が吹くと）雨が降る。
西がつかえる（雲で）と雨が降る。
月に暈がかかると雨。日に暈がかかっても雨。
お月様が傘をさしているとき、その傘の中に星が一つあれば一日すると雨、二つあれば二日、三つあれば三日すると雨が降る。
大霜があると雨が降る（霜がえし）。
霜が下り日が照らないうちに早く消えると雨が降る。
硯を洗うと雨が降る。
硯をさかさまからすると雨が降る。
夜明けの星がキラキラするのは雨の兆。
鍋・釜のへぐり（鍋ずみのこと）に火がつくと雨。
海へ小さな砂が浮くと雨がふる。
雨降りをはめると長雨になる。
春夕焼けが濃いと嵐。
春、遠くの景色（南西方の山々）がよく見えると嵐。
蜂が高く巣をつくる年は大水、低いと大風。
小蟹が道に多く上がってくると大雨になる。
大蚯蚓が地面に出てくると大雨になる。
蛭が家の中に入ってすすをなめると大水が出てその家はおし流される。
牛馬にまんが（秋鍬）をつけたままで溝を越えたり川を渡ったりすると大暴風雨になる。
梅の花が下向きに咲く年は雨が多い。
新月の傾きの急な月は雨が少ない。

## 晴れに関することわざ

夕焼、朝の灰色雲は晴、朝焼、夕方の灰色雲は雨となる。
猫が朝、顔を洗うと日和、鼻を上向けて寝ると雨が近い。
ふくろうが朝鳴くと晴、夕方に鳴くと雨になる。
お月様が傘をさしていると翌日はお天気である又反対に言う者もある。
北風は天気となり南風は雨となる。
風が西に廻ると天気良くなる。

## 風・雷・雪・霜等に関することわざ

北ゴチの風が吹いたら沖にいると危ない。
月が見えなくなると、南よりの風から北西の風が強くなる。
三、四日ふすった（黄砂）ら、必ず雨で東寄りの風が吹く。
鳳翽（ほうべん）おろしに藁を敷け。
一つ雷が鳴ったら油断するな（大風のもと）。
鳥の巣が低い年は大風がある。
女郎蜘蛛が低く巣を張ると大風がある。
夏、西はやて（雷雨）は寝ないで待つ（しばらく待つ）。
夏北はやて（雷雨）は港へ入る。
海あまんぼが岡へあがると沖がしける。
一つ雷は大雪のもと（三月初め虫起こしという）。
茶の花が上向きに咲くと雪が少ない。
鳥が騒げば大雪が降る。
地震は四ツ八ツ日照り五七雨

『防長民俗叢書1防長の迷信』内田伸 1960  
『萩市史』第3巻 1987  
『川上村誌』1964  
『福栄村史』1966

# 4

# 災害教訓一覽



さいがい きょうくん さんこう  
 災害の教訓をとりまとめたから、参考にしてね！

## 1 風水害編

教訓	災害名	頁
<p>台風の大雨により、佐波川で洪水が発生したんだ。                      台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長い時間降らせるおそれがあるんだ。強い雨が続きと大雨による災害が発生しやすいから注意してね。</p>	大正7年7月台風 (1918年7月)	1-2
<p>周防灘台風では、気象情報が伝わるのが遅くて、多くの住民が十分な準備ができないうちに被害にあったんだ。                      日頃から気象情報を確認し、身の危険を感じたら早めに避難しよう。</p>	周防灘台風 (1942年8月)	1-3
<p>台風の接近で秋雨前線の活動が活発になったことから大雨になったんだ。                      梅雨前線や秋雨前線が停滞しているときに台風が近づくと大雨になるおそれがあるから、気象情報に注意してね。</p>	枕崎台風 (1945年9月)	1-6
<p>梅雨末期の集中豪雨により、佐波川で洪水が発生したんだ。                      低気圧や台風、前線などによって積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すときに、集中豪雨が発生するおそれがあるんだよ。</p>	昭和26年7月豪雨 (1951年7月)	1-9
<p>ルース台風による大雨で、土砂災害や河川の洪水が発生したんだ。                      台風によって、大量の雨が短期間(数時間から数日)のうちに広い範囲に降るから、河川が増水したり堤防が壊れて水害(浸水や洪水)が起きることがあるんだよ。</p>	ルース台風 (1951年10月)	1-11
<p>昭和38年1月豪雪では、下関市の火の山でスキーができるほど雪が降ったんだ。                      日頃雪が降らないような場所でも雪が積もることがあるから、雪に対する知識を深めておくことが大切だよ。</p>	昭和38年1月豪雪 (1962年12月~1963年2月)	1-13
<p>昭和47年7月豪雨では、災害危険個所で被害が発生したんだ。                      自分の住んでいる地域にどんな災害が発生するのか、日頃からハザードマップで確認しよう。</p>	昭和47年7月豪雨 (1972年7月)	1-14
<p>昭和58年7月豪雨では、大雨による土砂災害で被害が発生したんだ。                      土砂災害の多くは大雨によって起こり、1時間に30ミリ以上または降り始めから100ミリ以上の降水量になったら注意が必要だよ。</p>	昭和58年7月豪雨 (1983年7月)	1-15
<p>台風による強風で、鉄塔や電柱の倒れる被害が発生したんだ。                      台風の進行方向の右側では、台風自身の反時計回りに吹く風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くから風が強くなるんだ。台風が山口県の西側を通るときは、強風に注意してね。</p>	平成3年台風第19号 (1991年9月)	1-16
<p>台風の接近と大潮の満潮が重なったため、瀬戸内海沿岸で記録的な高潮になったんだ。</p>	平成11年台風第18号 (1999年9月)	1-17

<p>台風が接近すると、強い風が海水を吹き寄せ、また、海面が吸い上げられ、高潮になるんだ。大潮の満潮と台風の接近が重なると、高潮による浸水のおそれが高くなるんだよ。</p>		
<p>台風が接近・上陸すると、大雨、洪水、暴風、高潮などをもたらすんだ。特に、傾斜の急な斜面や川の近くでは、台風による大雨によって、がけ崩れや土石流、河川の氾濫が発生しやすくなるから注意してね。</p>	<p>平成17年台風第14号 (2005年9月)</p>	<p>1-19</p>
<p>避難をするときには、隣や近所の人に声をかけよう。地域みんなで助けあうことで、被害を最小限に抑えることができるんだ。</p>	<p>平成21年7月21日豪雨 (2009年7月)</p>	<p>1-21</p>
<p>梅雨前線による集中豪雨で、河川の氾濫や家屋の浸水が発生したんだ。集中豪雨は短時間のうちに局所的に雨が降るため、道路や低地が水に浸かったり、河川が急に増水したりするから注意してね。</p>	<p>平成22年7月15日大雨 (2010年7月)</p>	<p>1-24</p>
<p>避難をするときに、避難場所まで行くのが危険な場合には、無理に避難場所まで行かず、屋内の安全な場所に避難してね。</p>	<p>平成25年7月28日大雨 (2013年7月)</p>	<p>1-26</p>
<p>岩国市玖珂で71.0 mmの1時間降水量、156.0 mmの3時間降水量を観測し、土砂災害が発生したんだ。 自分達の住む市や町で過去にどのような災害があったのか、そのときの降水量がどれくらいあったのかを確認しておくことはとても重要なんだ。</p>	<p>平成26年8月6日大雨 (2014年8月)</p>	<p>1-29</p>
<p>災害時には、「自分は大丈夫」という思い込みに陥りやすいから、家族や地域で呼び掛け合って、危険な状況になる前に安全な場所に避難しよう。</p>	<p>平成30年7月豪雨 (2018年7月)</p>	<p>1-32</p>



## 2 地震・津波編

教訓	災害名	頁
<p>安芸灘～伊予灘では、これまでも50～100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が繰り返し発生しているんだ。</p> <p>地震などの災害に備えて、備蓄品や非常持出品を準備しよう。</p>	<p>貞享地震 (1686年1月4日)</p>	<p>2-2</p>
<p>南海トラフで起きる地震は、概ね100～150年で繰り返されているんだ。</p> <p>過去に起きた大地震を学び、次に起こる大地震に備えよう。</p>	<p>宝永地震 (1707年10月28日)</p>	<p>2-3</p>
<p>安政南海地震では、山口県にも約1.8mの津波が来たんだ。</p> <p>海の近くにいるときは「地震がおきたらすぐに高い場所に避難する」という心の準備をしよう。</p>	<p>安政南海地震 (1854年12月24日)</p>	<p>2-5</p>
<p>浜田地震では、日本海側の萩市見島で約1.2mの津波が来たんだ。</p> <p>地震の揺れによる被害だけでなく、津波にも注意が必要だよ。</p>	<p>浜田地震 (1872年3月14日)</p>	<p>2-7</p>
<p>山口県中部の地震では、長い期間、余震が発生しているんだ。</p> <p>大きな地震が発生すると、建物が傾いたり土砂災害が起きやすくなることがあるんだ。その後に発生する余震でも被害が生じやすくなっているから注意してね。</p>	<p>山口県中部の地震 (1987年11月18日)</p>	<p>2-8</p>
<p>山口県内には10以上の活断層が存在し、これらの活断層が動いた場合、大きな揺れが想定されているんだ。</p> <p>地震は起きないと思わず、住まいの耐震化を進めて、地震に備えよう。</p>	<p>山口県北部の地震 (1997年6月25日)</p>	<p>2-9</p>
<p>芸予地震では、室内でテレビや物の落下によって、怪我をした人がいるんだ。</p> <p>家具がたおれたり、棚に置いている物が落ちたりしないように固定しよう。</p>	<p>平成13年芸予地震 (2001年3月24日)</p>	<p>2-10</p>

## 参考 山口県の主な災害(昭和20年以降)

発生時期 年 月日		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額 (千円)	り災(人・家屋)の概況						
						死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水
S20	9.16 ~18	枕崎台風	最低気圧969.8mb(下関)、最大風速N23.2m/s(下関)、降水量 県内200~300mm	県東部、 大津郡	277,340	427	274	283	1,831	2,760	12,679	18,442
	10.7 ~12	阿久根台風	最低気圧984.3mb(下関)、最大風速 NNE18.7m/s(下関)、降水量 県内200~350mm	全域	—	5	4	3	39	16	621	1,988
S23	5.1 ~3	豪雨	低気圧、前線、降水量 堀179mm、広瀬 168mm	内海側 内陸部	—	2					380	
S24	6.20 ~21	デラ台風	最低気圧979.9mb(下関)、最大風速 ESE22.0m/s(防府)、降水量 県内150~ 200mm、北西部300mm	全域	1,071,729	9	16	5	38	35	5	910
S25	9.13 ~14	キジア台風	最低気圧980.7mb(下関)、最大風速 ENE29.5m/s(下関)、降水量 県内200~ 400mm	全域 特に中部・ 東部	12,161,204	12		177	670	1,934	9,927	22,377
	9.15 ~16	豪雨	熱帯低気圧、寒冷前線、降水量 北東部300~ 400mm	西部・北部								
S26	7.7 ~17	豪雨	低気圧及び前線、降水量 西部・中部山間部 400~700mm	中部・西部	12,849,521	28	1	428	855	2,446	4,467	18,188
	10.14 ~15	ルース台風	最低気圧963.0mb(下関)、最大風速35m/sに 達する所あり、降水量 東部480mm、1時間降 水量 東部100mm	全域、特に 錦川流域	32,708,369	281	124	1,869	4,963	9,765	7,827	28,163
S28	5.30 ~31	豪雨	前線、降水量 80~120mm(県北部を除く)	県北部を 除く各地	3,067,694	4		15	47	335	1,992	11,471
	6.23 ~30	豪雨	前線、総降水量 下関531.6mm、日降水量 下 関266mm	西部、中部	6,223,683	25		245	876	1,967	10,654	36,158
S31	8.16 ~17	台風9号	最大風速ESE29.8m/s(下関)、33.6m/s(防 府)、高潮	全域、特に 内海沿岸	804,023	2		6	195	324	14	657
	9.9 ~10	台風12号	最大風速ESE24.9m/s(下関)、一部高潮、雨 少ない	全域	1,311,718	1		4	104	176	2	103
	9.21 ~22	豪雨	低気圧、日降水量 角島140mm	豊浦郡一帯	125,845					20	147	563
S32	7.1 ~5	豪雨	梅雨前線、降水量 西部・中部400mm	全域	415,494			7	12	22	263	3,826
S34	7.13 ~15	豪雨	梅雨前線、降水量 345mm、局地豪雨あり	全域、 特に西北部	3,064,337	6	1	13	79	207	2,713	10,956
	9.16 ~17	第2 宮古島台風	風害、波浪害、最大風速E23.3m/s(下関)、一 部高潮、雨少ない	全域	498,365	2		4	7	64	1	239
S35	7.7 ~8	豪雨	梅雨前線、降水量250mm(山間部)、1時間降 水量 和田80mm	中部、東部	2,165,805	3		3	57	92	825	9,235
S36	7.4 ~5	豪雨	梅雨前線、日降水量 山口165mm、徳山 188mm、1時間降水量 桑根44mm	下関、山 口、柳井	200,409				2		12	669
	9.9 ~10	豪雨	寒冷前線、8時間降水量 和田209mm、1時間 降水量 和田73mm	中部、山陰	868,774			4	15	11	23	136
	9.15 ~16	第2室戸台風	風水害、最低気圧981.1mb(下関)、最大風速 26.2m/s(萩)、降水量 大田239mm、一部高潮	西北部	578,725	1		2	4	2		27
S37	6.2 ~3	豪雨	低気圧、降水量 徳山付近200~300mm	中部	99,944	2		2	2		30	232
	7.1 ~9	豪雨	梅雨前線、降水量 東部山間部・西部400mm ~500mm	全域	582,110	3		3	2	22	2	410
	7.13	豪雨	1時間降水量 仁保65mm	東部	91,214				2	2	168	3,075
S38	1.1 ~2.13 (サンパチ豪雪)	豪雪	積雪2m以上(東部山間部)、なだれ発生	内陸部、特 に阿武郡	4,272,310	7	3	11	438	1,706		
	4下旬 ~6月上旬	長雨	総降水量 県内600~950mm	全域 (農作物)	4,379,133	1		1	7	2	6	85
	7.10 ~11	豪雨	梅雨前線、降水量 徳佐300mm	西部	2,367,697				4	22	308	1,990
S39	6.24 ~27	豪雨	梅雨前線、降水量 東部・西部300~350mm、 1時間降水量 一の俣50mm	全域、特に 東部、西部	3,333,138			1	7	42	867	8,045
	8.23 ~24	台風14号	最大風速NE15.7m/s(下関)、降水量 東部160 ~200mm	全域	37,739			2	1		1	54
	9.2 ~3	豪雨	前線、降水量 田耕369mm、1時間降水量 粟 野100mm	全域、 特に西部	596,749	1		1	2	14	67	613
	8.24 ~25	台風20号	最大風速NNW16.7m/s(下関)、降水量 安下 庄107mm、風波	全域、主とし て東南部	65,670					5	15	107
S40	6.18 ~20	台風9号	梅雨前線、降水量 岩国326mm	全域、主とし て東部	1,292,517	1		2	15	31	415	6,818
	7.12 ~13	豪雨	梅雨前線、1時間降水量 山口・八坂・仁保40 ~41mm	東部、北部	580,305				1		7	162
	7.22 ~23	豪雨	梅雨前線、降水量 田万川346mm、1時間降 水量 萩54mm	山陰側北部	1,780,860	2		7	18	58	156	974
S41	8.5 ~6	台風15号	最大風速E26.0m/s(下関)、最大瞬間風速 SE39.7m/s(防府)、降水量 須金135mm	全域、特に 東部	1,046,813	1		4	14	24		5
	6.30 ~7.1	豪雨	梅雨前線、降水量 下関297.4mm、山口 299.0mm、中部・西部280~320mm	全域	1,362,313			2	2		248	4,109
	8.19	豪雨	寒冷前線、熱帯低気圧、降水量 北東部 300mm、1時間降水量 阿東町107mm	阿武郡、 特に 阿東、川上、旭	5,467,957	4		5	37	67	248	767
	9.17 ~18	台風24号	降水量 山陰200mm以上、仙崎285mm	全域	569,081			1		1		10
S42	5.15 ~6.20	干害	中緯度高圧帯が強い	全域	8,700,000							
	7.5 ~9	豪雨	梅雨前線、降水量 北西部・内海側200~ 350mm	全域	2,339,763			2	5	13	419	5,511
S43	9.24 ~25	第3 宮古島台風	降水量304mm(阿川)、150~200mm(東北 部、北西部)	全域	1,256,640			1	1		29	128
S44	6.28 ~7.11	豪雨	梅雨前線、総降水量 山間部500~700mm	全域	3,792,936	1		1	13	3	84	4,230

発生時期		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額(千円)	り災(人・家屋)の概況						
年	月日					死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水
S45	6.14 ~15	豪雨	梅雨前線、降水量 南東部200mm	全域	526,576				2			120
S45	8.14 ~15	台風9号	最低気圧971.1mb(下関)、最大風速ESE30.7m/s(下関)、降水量 山口184.5mm	全域	3,672,262			8	27	55	77	780
S46	8.4 ~6	台風19号	最低気圧972.7mb(下関)、最大風速ESE28.8m/s(山口)、降水量 山口228.0mm、馬糞岳406mm	全域	6,540,691	3		103	64	277	90	1,675
S47	7.9 ~13	豪雨	梅雨前線、降水量 山口447.5mm、日降水量山口297.0mm、山陰側500~600mm	全域	30,024,375	17		69	84	141	3,098	22,104
	8.20 ~21	豪雨	低気圧、前線、降水量 萩271.0mm、山口212.0mm、山陰側200mm以上	全域	1,023,287	1		1	2	11	281	1,024
S49	7.13 ~18	豪雨	梅雨前線、降水量 宇部311mm、日降水量 下関152mm	瀬戸内沿岸部	5,268,601				2	2	26	1,066
	9.7 ~9	台風18号	降水量 法華山377mm、日降水量 法華山212mm	県東部	2,186,430				1		11	262
S50	6.23 ~25	豪雨	梅雨前線、降水量 西市・馬糞山218mm	全域	4,774,478			1			6	254
	7.13	豪雨	梅雨前線、降水量 田耕306mm、降水量 田耕282mm	県北西部	7,236,121					3	68	1,221
	8.17	台風5号	最低気圧988.2mb(宇部)、降水量 柳井212mm	県南東部	2,146,531					1	10	864
S51	9.8 ~13	台風17号	最低気圧978.6mb(下関)、最大風速ESE21.0m/s(山口)、降水量 羅漢山343mm	全域	11,766,492	1		10	11	19	140	1,352
	12.26 ~52.2.28	大雪・低温	最深積雪53cm(徳佐)、最低気温-19.6°C(徳佐)、-18.0°C(鹿野)	全域								
S53	7.1 ~9.30	干害	高気圧強し、少雨、降水量年比32%(下関)、31%(安下庄)、33%(山口)	全域	4,525,381							
S54	6.26 ~7.2	豪雨	梅雨前線、降水量 柳井532mm、内海側400~500mm、日降水量 安下庄192mm	全域、特に瀬戸内海側	23,663,958	4		8	27	39	342	2,905
S55	5.20 ~21	豪雨	低気圧、前線、降水量 岩国・玖珂・柳井187mm	県東部	439,614							6
	6.30 ~7.30	豪雨	梅雨前線、降水量 瀬戸内側700~900mm、日本海側450~500mm、1時間降水量 下関56.5mm	全域、特に瀬戸内海側	20,011,972	1		9	12	14	129	4,075
	8.23 ~31	豪雨	低気圧、前線、降水量 全県100mm以上、特に油谷414mm	県北西部	15,440,519	2		5	13	15	76	1,250
	9.11	台風13号	最低気圧965mb(九州南岸)、降水量 油谷170mm	県西部	1,389,171	2		3			2	29
S56	6.25 ~7.30	豪雨	低気圧、前線、降水量 全県200mm以上、特に秋芳町613mm	県北西部	14,216,939			3	1	2	36	902
S57	7.13 ~30	豪雨	低気圧、前線、降水量 県下各地250mm以上、特に錦町611mm	全域	7,455,513	4		3	1	2	7	257
	8.27 ~28	台風13号	27日10時40分防府市付近に上陸、降水量 県東部・山間地100mm以上	県東部、北部、南部	1,184,580							5
	9.24 ~25	台風19号	最大瞬間風速NNE28.6m/s(下関)、降水量164mm	県北西部	1,132,081				1			
S58	7.20 ~23	58年7月豪雨	低気圧、前線、降水量 須佐206mm、田万川326.5mm、1時間降水量 田万川83mm	県北部	8,131,019	5		6	24	12	282	783
	9.27 ~28	台風10号	最低気圧991.2mb(山口)、最大瞬間風速NNE21.2m/s(山口)、降水量 安下庄365mm、柳井263mm、岩国280mm	主として県東部(瀬戸内海沿岸)	2,326,958				2	3		189
S59	6.25 ~26	豪雨	梅雨前線、総降水量 県北部・山間部200mm以上、1時間降水量 萩、油谷40mm以上	県北部山間部	797,775						2	45
	7.12 ~13	豪雨	梅雨前線、低気圧、総降水量 県東部100~150mm、1時間降水量 須佐・岩国・玖珂30mm以上	県東部 県北部	992,968							12
	8.21 ~22	台風10号	最大瞬間風速S28.2m/s(下関)、降水量 長野山239mm	山間部 県東部	2,392,963			2				
S60	5.19 ~20	豪雨	低気圧、前線、降水量 長野山201mm、広瀬185mm	県東部	870,100			1				
	6.21 ~7.14	豪雨	梅雨前線停滞、総降水量 油谷1,167mm、須佐1,093mm、1時間降水量 秋吉台48mm、桜山45mm	県北部	29,101,365	4		5	12	11	258	2,184
	8.31 ~9.1	台風12号及び13号	台風12号・最低気圧990mb(九州西岸)、台風13号・最低気圧955mb(九州南岸)、最大瞬間風速42.8m/s(下関)、降水量 篠生96mm、鍋提峠79mm	県西部	448,480	2		5		2		
S61	6.14 ~17	豪雨	梅雨前線、降水量 羅漢山255mm、和田246mm、長野山231mm	全域	2,445,095			1				31
	6.21 ~25	豪雨	梅雨前線、降水量 羅漢山222mm、秋吉台220mm、西市214mm	主として東部、北部	1,141,100							35
	7.4 ~16	豪雨	梅雨前線、降水量 和田397mm、山口392mm、鍋提峠375mm、宇部363mm	全域	2,543,852			3		1	20	449
	8.28	台風13号	最大瞬間風速30.6m/s(下関)、気圧965mb(東シナ海)、降水量 羅漢山72mm	全域	650,676							4
	9.9 ~10	豪雨	低気圧、秋雨前線、降水量 下松227mm、防府200mm、和田178mm、時間降水量 宇部61mm	全域	1,691,900						18	247
S62	2.2 ~3	暴風雪波浪	低気圧、最大瞬間風速NNW32.3m/s(萩)	県北部	4,181,387	1		9			1	1
	7.19 ~20	豪雨	梅雨前線停滞、総降水量 西市250mm、秋吉台215mm、時間降水量 西市46mm、鍋提峠36mm	全域	5,562,869			1			3	51
	8.13	豪雨	気圧の谷、総降水量 和田175mm、広瀬109mm、時間降水量 和田69mm、広瀬56mm	県東部	1,080,196						3	110
	8.30 ~31	台風12号	最低気圧935mb(九州南岸)、最大瞬間風速ESE42.2m/s(下関)、総降水量 羅漢山40mm、長野山35mm	全域	7,315,979			4		3		
	11.18	地震	震度 山口4、下関3	県南部	83,482			2				
S63	6.1 ~2	豪雨	低気圧、台風2号、降水量 玖珂153mm、岩国151mm、広瀬・安下庄145mm、柳井139mm、西市137mm	県東部	877,600	1						1

発生時期		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額(千円)	り災(人・家屋)の概況							
年	月日					死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水	
H1	7.8 ~13	豪雨	梅雨前線、総降水量 長野山290mm、広瀬278mm、須佐258mm、鍋提峠254mm、羅漢山253mm	県東部・北部	6,366,358					2	143		
	7.16	豪雨	梅雨前線、総降水量 下松52mm、秋吉台37mm、柳井35mm、篠生33mm	県東部	57,000						1	48	
	8.13	豪雨	寒冷前線、総降水量 防府90mm、宇部79mm、桜山78mm、下松70mm、時間降水量 防府68mm	県中央部	305,105							3	
	9.1 ~3	豪雨	秋雨前線、総降水量 長野山258mm、秋吉台245mm、羅漢山240mm	全域	2,728,820							12	
	9.9 ~10	豪雨	秋雨前線、総降水量 西市84mm、長野山52mm、広瀬48mm、時間降水量 西市68mm	県中央部	3,551,787	1			1		3	29	
	9.12 ~13	豪雨	秋雨前線、総降水量 油谷100mm、安下庄92mm、秋吉台85mm、鍋提峠83mm	県東部	50,950							6	
H2	6.14 ~16	豪雨	低気圧、前線、総降水量 長野山278mm、羅漢山240mm、防府238mm、広瀬227mm、宇部224mm、日降水量 長野山254mm、羅漢山222mm、防府221mm、広瀬210mm、宇部208mm	県全域	3,833,532			1			9	625	
	8.21 ~22	台風14号	気圧970mb(九州東岸)、日降水量 安下庄122mm、柳井97mm	県東部	462,238							5	
	9.12 ~13	豪雨	秋雨前線、降水量(12日PM3時~PM8時) 下関130mm	県西部	103,200						1	2	
H3	6.30 ~7.1	豪雨	梅雨前線、降水量(30日PM4時~1日PM9時) 玖珂108mm、岩国94mm、防府90mm	県東部	517,800							4	
	7.4 ~5	豪雨	梅雨前線、降水量(4日PM4時~5日AM8時) 鍋提峠226mm、篠生202mm、広瀬194mm、西市184mm	全域	6,396,335							5	
	9.6 ~7	豪雨	前線、1時間降水量 篠生54mm、美東町銭屋74mm	北部、西部	313,000							4	
	9.14 ~15	台風17号	最大瞬間風速NNW39.8m/s(下関)、SE37.9m/s(山口)、NEW36.5m/s(萩)、降水量 油谷161mm、萩146mm、須佐139mm	全域	9,331,448	1		15	1		55	368	
	9.27 ~28	台風19号	最低気圧947.0mb(下関)、953.0mb(萩)、957.3mb(山口)、最大瞬間風速SE53.1m/s(山口)、WNW45.6m/s(萩)、ESE45.3m/s(下関)	全域	51,673,148	6		239	35	650	520	2,835	
	10.28	地震	震度3 下関、山口、萩	県南部	530			1					
H4	8.18 ~19	台風10号	最大瞬間風速NNW35.1m/s(下関)、N34.9m/s(萩)、降水量 羅漢山207mm、広瀬203mm	全域	5,057,961					3	2	96	
	6.1 ~3	低気圧通過	最大瞬間風速ESE38.5m/s(下関)、SSE32.4m/s(萩)、SSE28.0m/s(山口)	県西部	618,878					1			
H5	6.18 ~19	豪雨	梅雨前線、降水量(18~19日) 玖珂87mm、安下庄80mm、岩国72mm	全域							1		
	7.1 ~2	豪雨	梅雨前線、降水量(2日) 岩国151mm、下松165mm、玖珂163mm	全域	5,856,053							1	
	7.4 ~5	豪雨	梅雨前線、降水量(4日) 安下庄145mm、柳井144mm、玖珂111mm、下松110mm	県東部	652,006	1			1		4	75	
	7.12	津波	北海道南西沖地震	県北部								1	
	7.16 ~18	豪雨	梅雨前線、降水量(17日) 玖珂219mm、和田205mm、下松194mm、安下庄181mm	全域	5,433,884			1			17	734	
	7.27 ~28	台風5号	最低気圧 995.9hpa(山口)、998.3hpa(萩)、999.8hpa(下関)、降水量(27日) 玖珂204mm、篠生191mm、羅漢山187mm	全域	7,462,837	3	1	8	4	1	85	1,746	
	8.1 ~2	豪雨	低気圧・前線、降水量(2日) 下松212mm、防府203mm、山口166mm	全域	12,180,723	5		4	6	3	60	2,685	
	8.9 ~10	台風7号	最低気圧、978.1hpa(下関)、979.3hpa(萩)、982.4hpa(山口)、最大瞬間風速SE33.7m/s(下関)、SE33.6m/s(山口)、SE33.0m/s(萩)、降水量(10日) 羅漢山133mm	全域	1,647,046			5		1			
	8.13 ~17	豪雨	低気圧、前線、累積降水量(13~17日) 徳佐355mm、鍋提峠336mm、油谷332mm、最大日降水量(日) 油谷128mm(14日)、西市126mm(17日)、鍋提峠123mm(14日)	全域	2,761,292							14	
	9.18 ~22	豪雨	低気圧、前線、累積降水量(18~22日) 下関196mm、鍋提峠174mm、山口166mm	全域								13	
	9.2 ~4	台風13号	最低気圧 985.3hpa(山口)、989.4hpa(下関)、990.0hpa(萩)、最大瞬間風速N25.3m/s(萩)、N24.9m/s(山口)、N24.2m/s(下関)、最大日降水量(9月3日) 玖珂134mm、柳井132mm、安下庄122mm	全域	2,465,700						9	268	
	9.22	地すべり	阿武町大規模農道 法面の崩壊 延長60m	阿武町		2							
	H7	3.16	風浪	最大瞬間風速 SE30.1m/s(萩)、SE24.1m/s(下関)、SSE22.6m/s(山口)、最大風速SE15.9m/s(萩)、SE12.7m/s(下関)、SSE10.3m/s(山口)	北部	24,250			1				
		7.1 ~7	豪雨	梅雨前線、最大日降水量 山口206mm(2日)、徳佐194mm(2日)、油谷185mm(2日)、安下庄183mm(3日)、総降水量(7月1日~7日) 山口452mm、下関452mm、宇部450mm	全域	8,524,074							150
		7.22 ~23	台風3号	最大瞬間風速 SE24.0m/s(下関)、SE23.6m/s(山口)、SE23.0m/s(萩)、最大時間降水量 篠生93mm、防府54mm、宇部50mm	全域	1,655,427						8	104
9.23 ~24		台風14号	最低気圧 994.4hpa(山口)、996.5hpa(下関)、996.7hpa(萩)、最大時間降水量 秋吉台64mm、宇部62mm、山口53mm	全域	3,816,495				1		188	1,195	
H8	6.24 ~26	豪雨	梅雨前線、総降水量 134mm(柳井)、最大日降水量 山口88mm									4	
H8	8.14 ~15	台風12号	上陸時の中心気圧 960hpa、上陸時の最大風速 40m/s、最大瞬間風速 39.2m/s(下関・14日)、最大日降水量 下関139mm(14日)		3,603,326	1		1			1	252	

発生時期		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額 (千円)	り災(人・家屋)の概況						
年	月日					死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水
H9	5.13 ~14	豪雨	総降水量(5月13日~14日) 広瀬238mm、山口229mm、長野山217mm、最大日降水量(13日) 防府156mm、山口138mm、最大1時間降水量 防府27mm、玖珂27mm	全域	1,107,013						43	
	6.25	地震	震度4 萩市、山口市、下関市	北部	427,198			2	1	2		
H9	6.28	台風8号	最大瞬間風速 NNE27.5m/s(下関)、NNE26.5m/s(萩)、SE22.4m/s(山口)、最大日降水量(28日) 岩国217mm、羅漢山215mm、長野山213mm、最大1時間降水量 和田31mm	全域	1,209,912						3	
	7.7 ~13	豪雨	梅雨前線、総降水量(7日~13日) 長野山509mm、羅漢山463mm、下松368mm、広瀬358mm、最大日降水量(7日) 長野山147mm、最大1時間降水量 和田31mm	全域	1,770,703						7	
H9	7.26 ~29	台風9号	最大瞬間風速 NW19.7m/s(下関)、NNE20.0m/s(山口)、WNW24.3m/s(萩)、最大日降水量(27日) 徳佐152mm、篠生144mm、最大1時間降水量 萩18mm、須佐17mm	全域	15,223,928			2	4	48	122	
	9.6 ~7	豪雨	総降水量 長野山208mm、羅漢山190mm、最大日降水量(7日) 長野山162mm、羅漢山137mm、最大1時間降水量 秋吉台47mm、長野山46mm、桜山42mm	全域	318,500						3	
	9.14 ~16	台風19号	最大瞬間風速 NE31.1m/s(下関)、NNE23.7m/s(山口)、WNW20.3m/s(萩)、最大日降水量(16日) 安下庄174mm、柳井164mm、最大1時間降水量 安下庄40mm、柳井37mm	東部	469,652					2	16	510
	11.25 ~26	豪雨	総降水量 和田207mm、山口160mm、最大日降水量(26日) 和田118mm、最大1時間降水量 柳井33mm、下松・和田30mm	全域	227,369			1		1		
H10	7.1	豪雨	総降水量 和田98mm、下関59mm、最大1時間降水量 和田45mm、下関・山口28mm	全域	7,000						1	
	9.15 ~16	豪雨	総降水量 下松181mm、広瀬90mm、最大1時間降水量 下松55mm、柳井28mm、広瀬21mm	東部	174,400						11	
	10.15 ~18	台風10号	最大瞬間風速 NE20.2m/s(下関)、ENE14.9m/s(山口)、WNW20.5m/s(萩)、最大日降水量(17日) 安下庄180mm、岩国・柳井154mm、最大1時間降水量 宇部39mm、柳井・山口38mm、安下庄・徳佐35mm	全域	636,549			2			43	
H11	6.28 ~30	豪雨	総降水量 油谷217mm、須佐215mm、西市210mm、萩209mm、鍋提峠166mm、秋吉台162mm、篠生162mm、最大1時間降水量 萩59mm、油谷51mm、須佐47mm、篠生47mm、西市41mm	全域	14,968,870	1		1		1	33	562
	9.24	台風18号	最大瞬間風速 SE46.4m/s(山口)、E41.9m/s(下関)、WNW24.0m/s(萩)、総降水量 徳佐163mm、広瀬149mm、羅漢山・篠生147mm、最大1時間降水量 篠生73mm、徳佐69mm、広瀬67mm、和田65mm	全域	41,517,933	3		179	80	1,284	2,468	7,372
H12	8.17 ~18	豪雨	総降水量 長野山75mm、玖珂74mm、柳井61mm、最大日降水量 玖珂72mm、長野山65mm、柳井61mm、最大1時間降水量 下関35mm	全域	56,000							47
	10.6	鳥取県西部地震	震度4 岩国市、柳井市、玖珂町、阿東町	東部				1				
	10.8 ~9	豪雨	総降水量 羅漢山101mm、鍋提峠97mm、西市90mm、広瀬83mm、篠生82mm、徳佐79mm、最大日降水量 羅漢山90mm、鍋提峠84mm、西市78mm、最大1時間降水量 鍋提峠38.5mm、西市35.5mm、羅漢山25.5mm	西部	85,700							65
H13	3.24	芸予地震	震度5強 和木町、阿東町、東和町、久賀町、大島町、岩国市、柳井市、大島町、平生町、橘町、田布施町 震度5弱 下松市、由宇町、玖珂町、上関町、徳山市、光市、周東町、大和町、小郡町 震度4 新南陽市、熊毛町、萩市、秋穂町、本郷村、錦町、山口市、宇部市、防府市、徳地町、阿知須町、須佐町、川上村、田万川町、むつみ村、豊北町、阿武町 震度3 旭村、小野田市、秋芳町、三隅町、下関市、美東町、油谷町、楠町、菊川町、美祢市、福栄村、山陽町、豊田町、日置町、豊浦町	東部	773,085			12	3	46		
	6.19 ~30	豪雨	総降水量 山口219mm、柳井210mm、安下庄194mm、最大1時間降水量 徳佐34mm、柳井35mm、下松33mm	全域	2,870,044							37
	7.17 ~18	豪雨	総降水量 須佐100mm、萩54mm、最大1時間降水量 秋吉台42mm、萩27mm	北部	71,200							12
H14	8.31 ~9.1	台風15号	最大瞬間風速 E28.6m/s(下関)	北部	72,493			2				6
	9.16 ~17	豪雨	総降水量 山口146.5mm、岩国・玖珂140.5mm、最大1時間降水量 岩国68mm、玖珂59mm、柳井38mm	全域	159,600						6	64
H15	7.11 ~14	豪雨	総降水量 西市216mm、桜山211mm、防府194mm、最大1時間降水量 桜山80mm、西市74mm、防府69mm	全域	2,974,476			1	1		18	282
H15	7.18 ~21	豪雨	総降水量 下関320mm、篠生281mm、徳佐267mm、最大1時間降水量 徳佐71mm、下関64.5mm、篠生55mm	全域	1,077,004			2			12	164

発生時期		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額(千円)	り災(人・家屋)の概況						
年	月日					死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水
H16	6.24 ~27	豪雨	総降水量 柳井329mm、安下庄291mm、防府228mm、最大1時間降水量 柳井50mm、桜山45mm、長野山43mm	全域	620,520							65
	7.8 ~9	豪雨	最大1時間降水量 玖珂64mm、岩国43mm		2,793							8
	7.31 ~8.2	台風10号	日最大瞬間風速 SW13m/s(宇部)、最大瞬間風速 WSW16.9m/s(下関)		196,191							12
	8.17 ~20	台風15号	最大瞬間風速 SSW30.2m/s(萩)、SSW28.1m/s(下関)、SSE26.5m/s(山口)、総降水量 羅漢山141mm、下松99mm、最大1時間降水量 下松59mm、玖珂35mm	全域	230,058			1			1	46
H16	8.30	台風16号	上陸時の中心気圧 965hpa(防府)、最大瞬間風速 ESE32m/s(防府)、NNW34.8m/s(萩)、総降水量 下松204mm、和田197mm、玖珂182mm、最大1時間降水量 和田63mm、防府60mm、下松54mm	全域	2,843,258	1		4	2	2	22	442
	9.6 ~7	台風18号	最低海面気圧 951.8hpa(下関)、最大瞬間風速 SE50.5m/s(山口)、SSE39.9m/s(萩)、SE38.1m/s(下関)、総降水量 下関173mm、徳佐170mm、油谷167mm、最大1時間降水量 山口75mm、篠生71mm、徳佐66mm	全域	19,068,361	23	3	177	40	526	82	580
	9.28 ~29	台風21号	最大1時間降水量 山口25mm、秋吉台24mm、防府24mm	全域	173,285	1		7			2	
	10.19 ~20	台風23号	最大瞬間風速 NNE39.4m/s(下関) NNE34.5m/s(山口)、NNE30.5m/s(萩)、総降水量 秋吉台174mm、徳佐166mm、山口149mm	全域	1,743,320	1		9			2	
H17	3.20	福岡県西方沖地震	震度4 下関市、宇部市、山口市、萩市、防府市、小野田市、柳井市、周南市、小郡町、阿知須町、油谷町、阿武町、阿東町 震度3 下松市、岩国市、光市、長門市、美祢市、周防大島町、由宇町、玖珂町、周東町、錦町、美川町、美和町、上関町、田布施町、平生町、徳地町、秋穂町、美東町、秋芳町、三隅町、日置町	全域	12,338			1				
	7.1 ~4	豪雨	総降水量 柳井446mm、安下庄429mm、下松332mm、和田326mm、玖珂310mm、最大1時間降水量 柳井69mm、安下庄58mm、下関56mm	全域	2,380,296	1		1				967
	7.9 ~11	豪雨	総降水量 鍋提峠215mm、秋吉台196mm、西市195mm、長野山184mm、篠生184mm、最大1時間降水量 西市43mm、柳井36mm	全域	274,197			1				
	8.21	豪雨	最大1時間降水量 下関59mm、鍋提峠35mm	全域							4	107
	9.6 ~7	台風14号	最大風速E240m/s(宇部)、最大瞬間風速E SE35.4m/s(山口)、総降水量 羅漢山532mm、広瀬394mm、最大1時間降水量 羅漢山59mm、広瀬55mm	全域	12,650,735	3		11	6	332	745	847
	12.12 ~31	豪雪	最大日降雪量 徳佐50cm(18日)、秋吉台10cm(18日)	西部、北部	21,258	1		2				
H18	4.10 ~11	豪雨	最大風速E14m/s(宇部)、最大瞬間風速 SE27.3m/s(萩)、総降水量 和田238mm、山口146.5mm、最大1時間降水量 安下庄19mm、山口11mm	中部、東部	423,472			1	1	1		
	6.21 ~26	豪雨	総降水量 下関209mm(6.21~23)、山口207.5mm(6.24~6.26)、最大1時間降水量 鍋提峠38mm(6.22)、桜山35mm(6.26)	全域	2,306,050							4
	9.15 ~16	台風13号	最大瞬間風速 SSE42.2m/s(山口)	全域	1,873,401			14	1	4		
H19	7.13 ~14	台風4号	最大瞬間風速 NNE23.5m/s(下関)、総降水量 岩国137mm、最大1時間降水量 岩国24mm	全域	13,652			1				
	8.2 ~3	台風5号	最大瞬間風速 W24.4m/s(下関)、総降水量 和田153mm、最大1時間降水量 桜山31mm	全域	113,518						1	25
	8.22 ~23	豪雨	総降水量 下関80.5mm、油谷79mm、最大1時間降水量 油谷45.5mm	全域	34,193					1		1
H20	6.20 ~22	豪雨	総降水量 下松187mm、山口181mm、最大1時間降水量 山口44mm	全域	369,293			2				15
	8.28 ~30	豪雨	総降水量 油谷136.5mm、須佐55.5mm、最大1時間降水量 油谷32.5mm	西部、中部、北部	163,959							7
H21	3.13	暴風	最大瞬間風速 NNE31.9m/s(須佐)、最大1時間降水量 和田 21mm、総降水量 和田117mm	全域	10,736			2				
	7.10	豪雨	総降水量 桜山98.5mm、和田91mm、最大1時間降水量 和田40.5mm、桜山38mm	全域	77,294							4
	7.15 ~16	高潮	最高潮位 特牛1.85m	北部							3	32
	7.19 ~31	豪雨	総降水量 防府331.5mm、下松 324.5mm、山口294mm、最大1時間降水量 桜山90.5mm、山口77mm、防府72.5mm	全域	18,163,509	22		35	33	77	696	3,864
	8.4	豪雨	総降水量 萩148mm、羅漢山116.5mm、最大1時間降水量 萩61mm、油谷49.5mm	全域	82,177						1	12
	10.7 ~8	台風18号	最大瞬間風速 NNE26.6m/s(秋吉台)、総降水量 安下庄28.5mm、最大1時間降水量 徳佐5mm	北部、東部、西部	6,018			1				
H22	6.25 ~29	豪雨	総降水量 秋吉台378.5mm、羅漢山350.0mm、最大1時間降水量 豊田48.5mm、篠生43.5mm	西部、中部	714,199							16
H22	7.10 ~20	豪雨	総降水量 東厚保588.0mm、秋吉台584.5mm、豊田570.0mm、最大1時間降水量 豊田72.0mm、東厚保52.0mm、下松55.0mm	西部、中部	11,857,334				3	35	608	974
	8.12	台風4号	最大瞬間風速 SSE20.4m/s(萩)、総降水量 豊田56.5mm、最大1時間降水量 油谷25mm	北部	4,330							4

発生時期		災害原因	気象概略	主な被災地域	被害総額 (千円)	り災(人・家屋)の概況						
年	月日					死者	行方不明	負傷者	家屋全壊	家屋半壊	床上浸水	床下浸水
	9.7	台風9号	最大瞬間風速 SSW16.6m/s(徳佐)、総降水量 羅漢山45mm、最大1時間降水量 和田10mm	北部								1
	12.3	暴風	最大瞬間風速 SSW24.0m/s(安下庄)、W23.1m/s(宇部)	西部				2				
H23	2.11 ~12	暴風雪	最大瞬間風速 WNW24.3m/s(安下庄)、N24.3m/s(須佐)、W21.6m/s(下関)、積雪の深さ 徳佐30cm、山口11cm	西部	7,552			1				
	7.25	豪雨	総降水量 玖珂91.0mm、最大1時間降水量 玖珂45.0mm	東部	188,969			1				
	8.21	豪雨	総降水量 広瀬108.5mm、豊田104.0mm、最大1時間降水量 豊田74.0mm、広瀬55.5mm	西部	207,293	2		1		2	2	1
	8.22	豪雨	総降水量 秋吉台191.5mm、東厚保188.0mm、最大1時間降水量 東厚保50.5mm、安下庄47.5mm	西部	327,305						2	1
	8.28	豪雨	総降水量 秋吉台・徳佐73.5mm、最大1時間降水量 徳佐41.0mm	中部	1,262							1
	9.2 ~4	台風12号	最大瞬間風速 N27.9m/s(秋吉台)、NNE25.7m/s(油谷)、総降水量 徳佐75.5mm、安下庄61.5mm	東部	13,678			1				
	9.18 ~21	豪雨 台風15号	総降水量 油谷354.5mm、下関235.0mm、最大1時間降水量 秋吉台48.5mm、下関40.5mm	西部、北部	116,696						16	700
	H24	4.2 ~4	暴風	最大瞬間風速 WSW26.3m/s(油谷)、SW24.7m/s(下関)	西部	388,815			2			
4.21 ~22		暴風	最大瞬間風速 S31.6m/s(須佐)、S29.8m/s(油谷)	西部、北部	33,802			3				
7.3		豪雨	総降水量 東厚保95.5mm、山口75.5mm、最大1時間降水量 東厚保46.5mm、下松37.5mm	中部	214,729							2
7.14 ~15		豪雨	総降水量 下関219.5mm、東厚保147.5mm、最大1時間降水量 下関70.5mm、萩55.0mm	西部	80,567							1
7.16		豪雨	総降水量 豊田54.5mm、油谷36.5mm、最大1時間降水量 豊田19.5mm、油谷14.5mm	北部	12,086						1	
8.11		豪雨	総降水量 和田176.0mm、最大1時間降水量 和田72.0mm	中部	77,304						4	14
9.17		暴風	最大瞬間風速 E26.8m/s(油谷)、SSE26.3m/s(防府)	中部	17,910			1				
H25	7.3 ~4	豪雨	総降水量 下松185.5mm、山口146.5mm、最大1時間降水量 下関60.0mm、須佐51.5mm	東部	132,152	1						45
	7.6 ~7	豪雨	総降水量 萩187.0mm、油谷184.0mm、最大1時間降水量 萩59.5mm、豊田49.0mm	北部、西部	134,342						1	
	7.28 ~8.6	豪雨	総降水量 徳佐432.5mm、山口266.5mm、最大1時間降水量 山口143.0mm、須佐138.5mm	北部、中部	19,062,815	2	1	11	32	508	153	1,050
	8.24 ~25	豪雨	総降水量 須佐251.5mm、萩147.5mm、最大1時間降水量 須佐76.5mm、山口47.0mm	北部	156,615					6		36
	8.30 ~9.4	豪雨	総降水量 羅漢山365.0mm、萩338.0mm、最大1時間降水量 玖珂55.0mm、萩48.5mm	中部、西部、北部	367,868					1		15
H26	3.14	伊予灘を震源とする地震	震度5弱 柳井市、平生町、防府市、下松市 震度4 萩市、阿武町、下関市、宇部市、岩国市、光市、和木町、上関町、周防大島町、田布施町、山口市、周南市 震度3 長門市、美祢市、山陽小野田市	全域	41,906							
	8.2 ~6	豪雨	総降水量 玖珂412.0mm、岩国400.0mm、最大1時間降水量 岩国71.0mm、玖珂60.0mm	東部	1,939,180	2		4	10	190	11	265
	10.12 ~14	台風19号	最大瞬間風速 N35.0m/s(秋吉台)	全域	18,723			2				
H30	7.3 ~4	台風7号	総降水量 山口138.0mm 最大瞬間風速 S30.7m/s(防府)	西部、中部	222,578			3				
	7.5 ~9	豪雨	総降水量 下松495.0mm 日降水量 岩国343.0mm 1時間降水量 下松86.0mm	東部	22,181,370	3		10	23	522	143	731







---

## 参考文献

---

- 金折裕司『江戸時代に起きた山口県の震災 活断層地震とスラブ内地震』金折研究室, 47頁. 2013年
- 金折裕司『一八五四年安政南海地震と一八七二年浜田地震による山口県の被害報告 第二版』金折研究室, 43頁. 2013年
- 金折裕司『この1冊でわかる 山口県の活断層と大地震～次の大地震に備える～【改訂版】』金折研究室, 50頁. 2015年
- 金折裕司『語り継がれた山口県の大震災と津波－伝説と民話－』金折研究室, 40頁. 2013年
- 金折裕司『1707年宝永地震～山口県の地震・津波記録～』金折研究室, 15頁. 2014年
- 周防大島町立城山小学校『瀬戸内海でもご用心～津波は帰ってくる～』, 13頁. 2015年
- 伊藤一晴『宝永四年地震関係史料－徳山毛利家文庫を中心に－』, 山口県文書館研究紀要, 第41号 別刷. 2014年
- 伊藤一晴『貞享二年地震関係史料－山口県域の被害状況－』, 山口県文書館研究紀要, 第42号, 105－119. 2015年
- 厚南風水害受難追悼記念事業実行委員会『厚南大風水害の思い出－五十回忌追悼記念誌－』, 367頁. 1992年
- 安全で潤いのある地域づくり実行委員会『水防意識普及啓発事業記念誌 周防灘台風から 50年』山口県, 123頁. 1993年
- 西川暁『御庄ウォーク』, 75頁. 2014年
- 須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7. 28 山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102人の証言』, 89頁. 2015年
- 萩市『2013[平成25年]7. 28萩市東部集中豪雨災害の記録』, 56頁. 2015年
- 今村明恒『明治五年ノ濱田地震』, 震災予防調査会報告書, 第77号. 1913年
- 内閣府『1日前プロジェクト』
- 下関地方気象台『山口県災異誌』山口県, 400頁. 1953年
- 下関地方気象台『山口県災異誌 続』山口県, 179頁. 1964年
- 下関地方気象台『山口県災異誌 第3巻』山口県, 242頁. 1972年
- 下関地方気象台『山口県災異誌 第4巻』山口県, 225頁. 1983年
- 下関地方気象台『山口県災異誌 第5巻』山口県, 228頁. 1994年